SNAPPER™

2812523BVE
3317523BVE

取扱説明書

ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読み下さい

POWERED BY BRIGGS&STRATTON

ブリッグス・アンド・ストラットンジャパン株式会社

目　次

１．はじめに ……………………………… 3
２．組み立て ……………………………… 3
2-1　ステアリング関連部品 ……………… 3
2-2　ブレードの確認 ……………………… 4
2-3　潤滑油の確認 ………………………… 4
2-4　燃料タンク …………………………… 4
2-5　シートスイッチの取付け …………… 5
2-6　シート（座席）の取付け …………… 5
2-7　バッテリー …………………………… 5
2-8　シュートディフレクター …………… 6
2-9　エンジン ……………………………… 6
2-10 付属部品 ……………………………… 6
３．各部の名称 …………………………… 7
４．使用上の注意、警告事項 …………… 8
4-1　運転前の注意 ………………………… 9
4-2　運転時の注意 ………………………… 9
4-3　運転後、整備時について …………… 10
５．始動前の点検 ………………………… 11
5-1　タイヤ ………………………………… 11
5-2　デッキ，シュートデフレクター …… 11
5-3　エンジンオイル ……………………… 11
5-4　座　席 ………………………………… 11
5-5　ブレードコントロール ……………… 12
5-6　デッキ、エンジン …………………… 12
5-7　ガソリンの給油 ……………………… 12
６．始動、操作、停止 …………………… 13
6-1　始　動 ………………………………… 13
6-2　走　行 ………………………………… 15
6-3　走行の停止 …………………………… 15
6-4　芝刈作業 ……………………………… 15
6-5　停　止 ………………………………… 16
6-6　リバースロックアウトメカニズム … 18
７．整　備 ………………………………… 20
7-1　最初の使用５時間後の点検 ………… 20
7-2　作業時間 25 時間毎の点検 ………… 22
7-3　１年間使用後の点検 ………………… 24
7-4　２年ごとの点検 ……………………… 24
7-5　保管（使用シーズン外） …………… 24
８．調整と修理 …………………………… 26
8-1　エンジンの調整、修理 ……………… 26
8-2　デッキ、及び周辺部品の調整 ……… 26
8-3　ブレードの左右水平度の調整 ……… 27
8-4　デッキの前後の高さ調整 …………… 28
8-5　ドライブユニットの調整 …………… 29
8-6　ブレードの修理、交換 ……………… 32
8-7　ベルトの交換 ………………………… 33
8-8　バッテリー …………………………… 36
９．故障の原因と対処 …………………… 38
１０．定期整備表 ………………………… 40
１１．スナッパーとホコリの戦い ……… 41

1. はじめに

このたびは弊社の芝刈機をお求めいただき誠にありがとうございます。

この説明書は芝刈機の正しい取扱方法と、簡単な点検手入れについて説明してあります。運転する際には必ずお読みいただき、正しく安全な取扱いをお願いします。

本機の品質には万全を期しておりますが、作動の不具合や部品などに不審な点がありましたら、当社営業所、販売店、又は協力サービス工場へご連絡下さい。

- この取扱説明書はいつも手元に保管して繰り返しお読み下さい。
- 取扱説明書に記載された使用方法及び保守点検を守らない場合は、本機の故障や事故などの原因となり、機械の寿命を縮めるばかりでなく作業の安全を損ないます。

お問い合わせ 下記の記入欄に御買い求めになった、芝刈機及びエンジンのモデルNo.とスペックNo. 購入年月日、購入店名を記入頂き、お問い合わせ、部品の購入、修理依頼の際はシリアルNo.とスペックNo.を必ずご連絡下さい。

芝刈機の製造番号

モデルNo.	購入年月日　　　　年　月
シリアルNo.	購入店名

エンジンの製造番号

モデルNo.	スペックNo.
シリアルNo.	

2. 組み立て

組み立てに必要な工具類

：ハンマー、ペンチ、7/16” と 1/2” のスパナもしくはソケットレンチ、
バッテリーの電解液（電解液が芝刈機に付属していない場合は、最寄りの販売店にてお求め下さい。）

この芝刈機は予め当社で組立てて配送しておりますが、事情によってステアリング、シート、燃料タンクが外された状態で配送される場合があります。木枠を取り外した後、本体に損傷がないか、付属部品が必要な数だけあるか確認してから、組み立て作業を行なって下さい。

2-1 ステアリング関連部品

① ステアリングシャフト

1. リアバンパーを下にして芝刈機をゆっくりと立てます。この作業は2人以上で行なって下さい。（19頁③参照）
2. ステアリングシャフトの下の端を、奥まで押し込みます。（図 2-1）
3. タイロッドの端にブッシングをはめて、ステアリングシャフトプレートに入れ、平ワッシャーと割りピンで止めます。

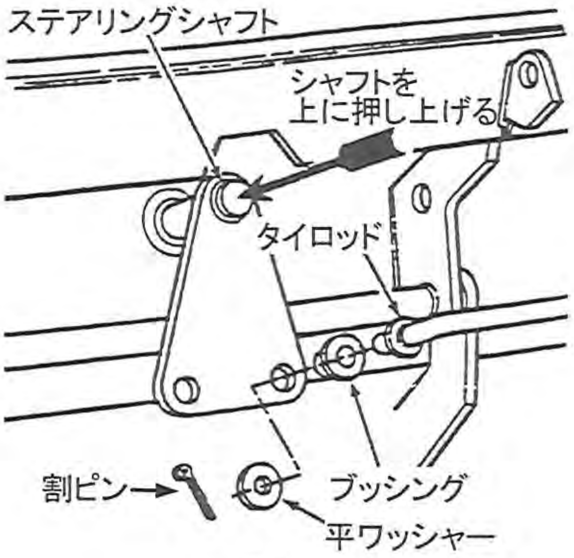


図 2-1

4. ステアリングシャフトからビニールキャップを取り外します。
5. アッパーブッシュをステアリングシャフトに通し、コントロールパネルに付くまで押し込みます。（図 2-2）
6. スラストワッシャーをステアリングシャフトに通し、アッパーブッシュの上に乗せます。
7. 割ピンをスラストワッシャーの上からステアリングシャフトに取り付けます。
8. ブッシュカバーを割ピン、スラストワッシャー、ブッシュの上から取りつけます。
9. ステアリングシャフトをステアリングシャフトカバーで覆います。

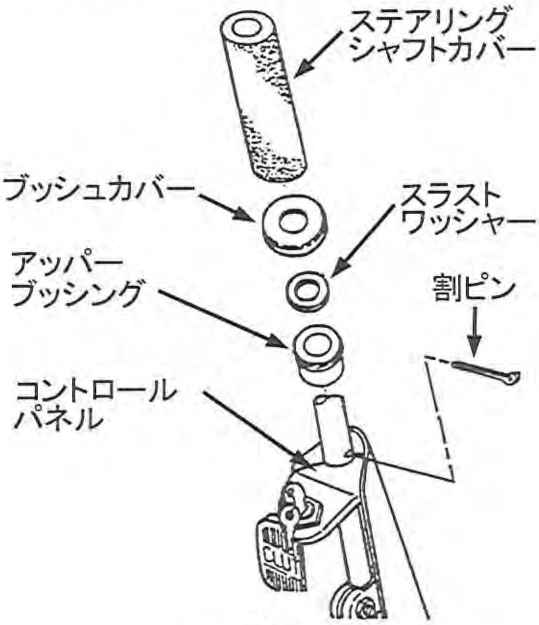


図 2-2

② タイロッド

タイロッドの端にブッシングをはめて、ステアリングアームに入れ、平ワッシャーと割りピンで止めます。（図 2-3）

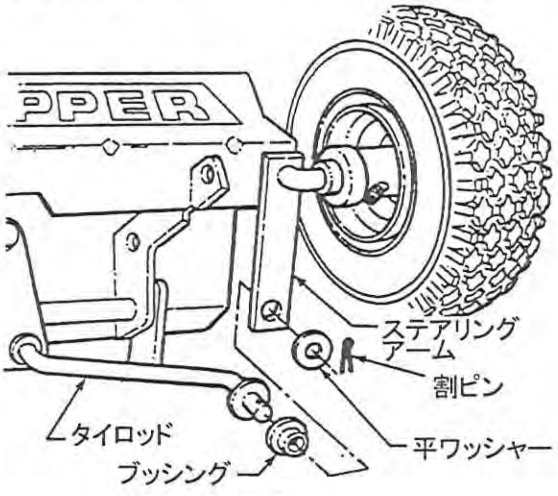


図 2-3

③ ステアリングホイール

1. ステアリングシャフトにステアリングホイールを取り付けてください。通常、ステアリングホイールはシート側に傾いています。（図 2-4）
2. ステアリングホイールを押さえながら、ロールピンをステアリングホイールとステアリングシャフトの穴に打ち込んで固定して下さい。

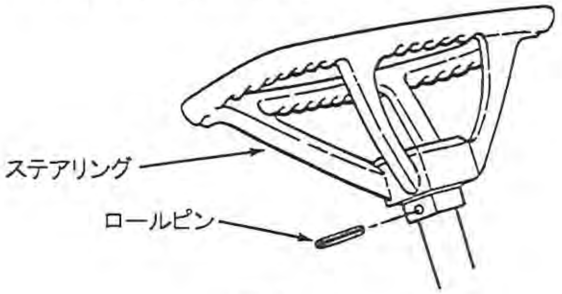


図 2-4

2-2 ブレードの確認

1. ブレードのマウントボルトの締付トルクを点検して下さい。（31 頁 8 項参照）
（締め付けトルク：4.5～5.5kgf-m）
2. ブレードが水平に取りついているか点検して下さい。（25 頁参照）

2-3 潤滑油の確認

1. デファレンシャルケースとチェーンケースの潤滑油が適切な量か点検して下さい。（22 頁参照）
2. 潤滑油の点検が終わったら、芝刈機をゆっくりと正立に戻して下さい。

2-4 燃料タンク

① 燃料タンク

シートブラケットの後方の燃料タンクブラケットに燃料タンクをパチンとはまるまで押し込んで下さい。（図 2-5）

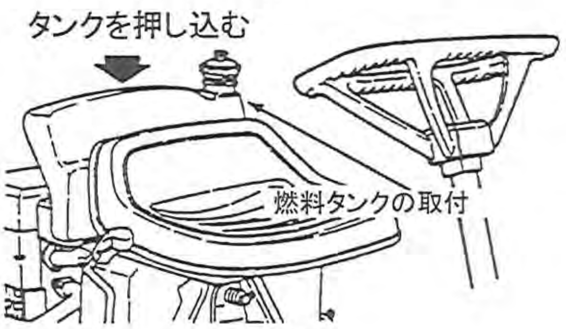


図 2-5

② 燃料ホース

燃料タンクの燃料ホース取り付け口に燃料ホースを取り付け、ホースクランプで押さえてください。燃料ホースはエンジンに取り付けられています。（図 2-6）

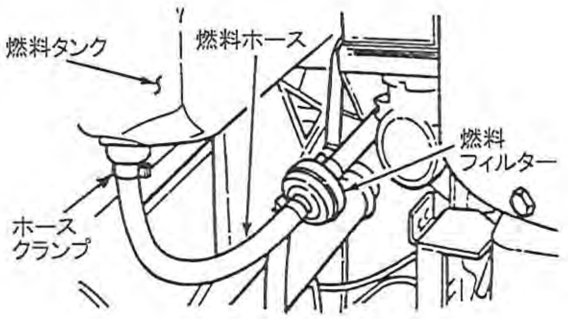


図 2-6

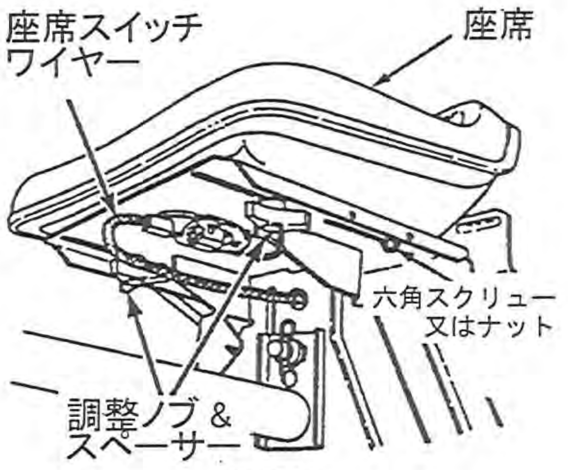


図 2-8

2-5 シートスイッチの取付け

1. シートスイッチをシートの底のスイッチ取り付け穴の溝に合わせて押し込み、時計方向に約 1/8 回まわして固定します。（図 2-7）
2. シート前方の端をシートプレートに合わせて置き、シートスイッチをシートプレートの穴から下へ突き出します。
3. シートスイッチの端にシートスイッチワイヤーのコネクターをしっかり差し込みます。

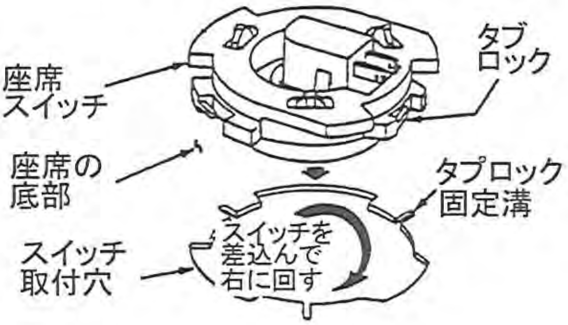


図 2-7

2-6 シート（座席）の取付け

1. シートプレートにシートを取付位置に合わせます。
2. シートプレートの後方の長穴に六角スクリューを差込みシート後方の 2 ヵ所のネジ穴に取りつけます。（図 2-8）
3. 調整ノブにスペーサーを通し、シートプレートの前方の長穴に調整ノブを差込み、シート前方の 2 ヵ所のネジ穴に取り付けます。
4. 必要な位置にシートを調整した後、六角スクリューをシートがスライドできる程度に締めつけて、調整ノブはしっかりと締めてシートを固定して下さい。

2-7 バッテリー

バッテリーは乾燥状態で輸送されます。以下の手順に従って充電して下さい。（34 頁参照）

① バッテリーの取り外し

バッテリーを取り外して下さい。（33 頁参照）

② 電解液の入れ方

付　記
芝刈機に電解液が付属していない場合は、最寄りの販売店にてお求めください。

1. 平坦で通気の良い場所にバッテリーを移動させて下さい。
2. バッテリーのセルキャップを外し、バッテリーの横に記載されているminimum-maximum ラインの間まで電解液を入れて下さい。
   この状態でバッテリーは約 80%まで充電されており、エンジンは始動可能です。
3. 更にバッテリーを充電する場合は、セルキャップを外して 1A で 2 時間充電して下さい。
4. 電解液の量を確認してセルキャップを取り付けて下さい。

・警　告

✧ 電解液は爆発性の高いガスを発生させます。バッテリーを充電するときや電解液を追加するとき等は必ず火の気の無い場所で行なって下さい。
✧ 電解液は腐食性の高い液体です。電解液を取り扱うときは、保護メガネ、保護手袋を着用してください。電解液が眼や皮膚に触れたときは、直ちにきれいな水で洗い落とし、病院で診察を受けて下さい。
✧ バッテリーを取り扱う際には、エンジンの取扱説明書を合わせて読み、感電しないように十分警戒して下さい。
✧ バッテリーが芝刈機に取付けてある間は絶対にバッテリーの充電その他の作業を行なってはいけません。また、急速充電を行なってはいけません。
✧ 決して過充電はしないで下さい。

③ バッテリーの充電

バッテリーを充電して下さい。（34 頁参照）

④ バッテリーの取り付け

バッテリーを取り付けて下さい。（33 頁参照）

2-8 シュートディフレクター

シュートディフレクターをボルト、ワッシャー、ちょうナットでしっかりと取り付けます。（図 2-9）

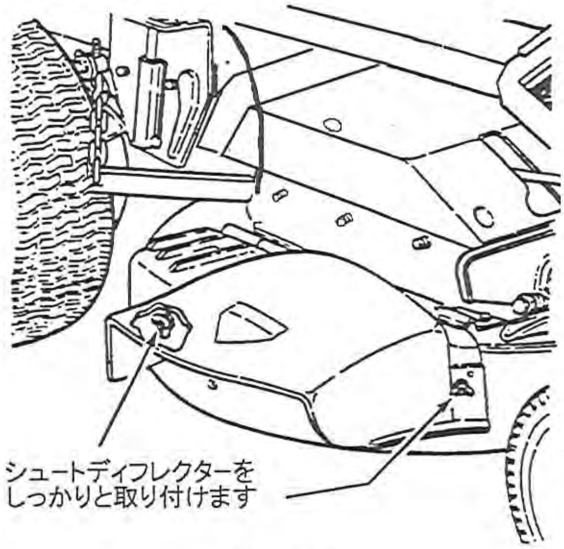


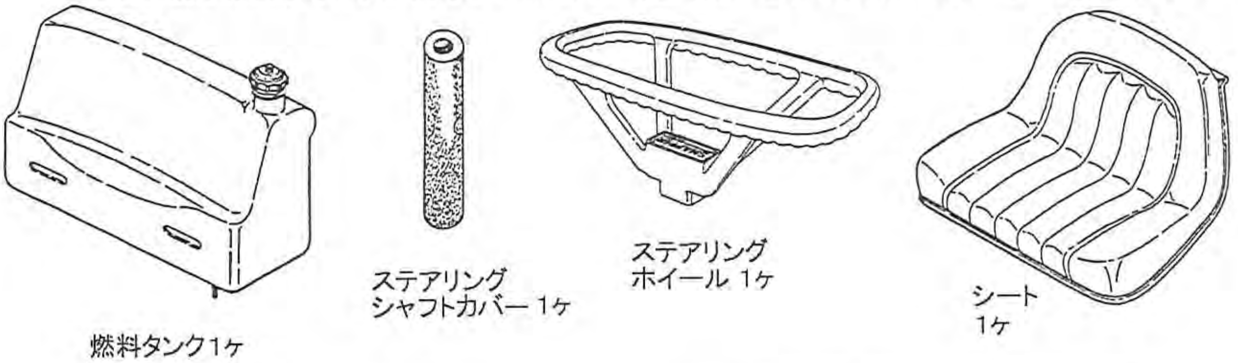
図 2-9

2-9 エンジン

エンジンの取り扱い説明書に従って点検して下さい。

2-10 付属部品

次の部品が付属しているか確認して下さい。（芝刈機に組みつけられている場合もあります。）



3. 各部の名称

- 下図にスナッパー芝刈機 3317523BVE の各部の名称を示します。芝刈機を操作する人は実際の操作に入る前に図をよく見て、芝刈機の運転や操作に必要な箇所を確認して下さい。
- エンジンの取扱いに必要な作業，注意点等の詳細は、同封のエンジンの取扱説明書を参照して下さい。
- この「スナッパー乗用芝刈機」の取扱説明書とエンジンの取扱説明書は良く読んで理解しておき、作業に入った後も常に手元において、実際の操作の参考にして下さい。

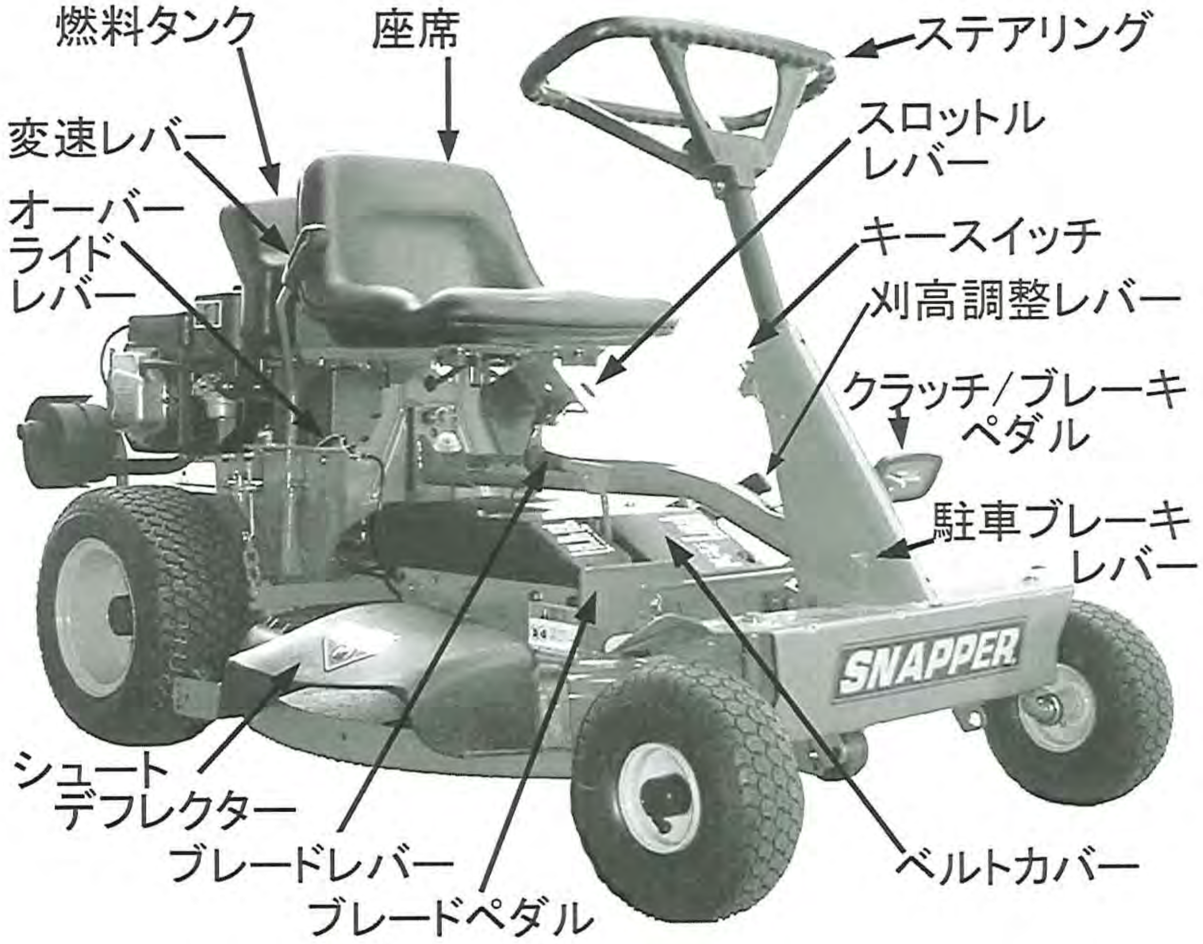


図 3-1

4. 使用上の注意、警告事項

✧ すべての安全規則を守ること！
✧ この取扱説明書に記載されている、警告及び注意事項をよく読み、確実に理解して下さい。

文中の・警 告、・注 意は安全上及び取扱上特に重要な部分ですから、必ず守って下さい。

・**警 告**：<u>特に重要な取扱上の警告事項です。</u>
　ここに説明された事項については、間違った取扱いをしますと<u>重大な事故や負傷の原因</u>にもなりますので、必ず守って下さい。

・**注 意**：<u>正しい操作のための注意事項です。</u>
　ここに説明された事項については、間違った取扱いをしますと<u>事故や機械の故障の原因</u>にもなりますので、必ず守って下さい。

・警 告

1. この芝刈機は身体や周囲の物に損傷を与えるものを飛散させたり、手や脚を切断してしまう恐れがあります。
2. 以下の安全事項の確認を怠りますと、重傷を負ったり死に至る危険性が生じますので、この取扱説明書をよく読み不明な点があれば販売店、代理店までお問い合わせ下さい。

・警 告：子供の保護のために

1. 芝刈機の運転中は、ブレードが停止していても子供を芝刈現場に入れてはいけません。
2. ブレードを停止させていても、子供を芝刈機の本体や牽引部分に乗せてはいけません。
3. 子供や高齢者に芝刈機を運転させてはいけません。

・警 告：転倒を避けるために

1. 傾斜地での走行は、操縦が不安定になったり、転倒する危険が非常に多く、大怪我や死亡事故の原因となりますから最大の注意を払って下さい。
   特にグラスキャッチャーや他のアタッチメントを取り付けているときは、安定性が悪くなる場合がありますから充分注意して下さい。
2. 傾斜地を走行するときは常にゆっくりと、前進方向で注意深く発進して下さい。
3. 15度(27%勾配)以上の急な斜面で芝刈機を使用してはいけません。
4. 抵抗の多い場所や安定性の悪い場所では、芝刈り作業をしないで下さい。
5. 草に隠れた危険物や障害物、穴等に常に注意を払い、溝や崩壊物、排水渠、フェンス、突き出た物等には近づかないで下さい。
6. 溝の端等落下の危険性のある場所から最低1メートルは安全な距離を保って下さい
7. 10度(18%勾配)を越す斜面を走行するときは、下記のことに充分注意して下さい。
8. 坂を登るときや減速するときは、ブレードを停止し、急な方向転換をしなで下さい。
9. 登り坂では芝刈機を発進しないで下さい。
10. 芝刈機が上り坂の途中で停止した場合は、ブレードを停止してゆっくり後退し、斜面をおりて下さい。
11. 斜面の上下方向に向かって前進、後退しながら芝刈り作業をしないで下さい。

4-1 運転前の注意

・警　告：運転前の準備

1. 適切な判断が下せて、信頼のできる大人が芝刈機を運転して下さい。
2. ６０才以上の人が芝刈機を運転する場合に、芝刈機に関連した怪我をすることが非常に多いという統計資料があります。
   ６０才以上の人は自分自身や他の人に、怪我をさせないで安全に芝刈機を運転できる技量があるか、ご自分で良く判断することが重要です。
3. 取扱説明書をよく読み、エンジンを始動する前に操縦装置の位置を憶え、操作方法を練習して下さい。
4. アタッチメント類の取扱説明書も良く読んで、取扱い方法を憶えて下さい。
5. 芝刈機本体やエンジンに貼ってある、警告や注意事項のラベルに注意を払って下さい。
6. 芝刈り作業をする時は、必ず長ズボンや安全靴といった保護服を着用して下さい。
7. 絶対にサンダルや裸足で作業してはいけません。
8. 飲酒後や、薬物の服用後は絶対に芝刈機を操作してはいけません。
9. エンジンとブレードの停止方法を憶えて、緊急時に素早く対処できるよう練習して下さい。
10. 人やペットを芝刈機や芝刈現場に近づけないで下さい。　もし芝刈り現場に、人やペットが入ってきたらすぐに芝刈機を止めて、ブレードも止めて下さい。
11. グラスキャッチャー、サイドシュート、安全スイッチ、ブレードコントロール等の安全装置が正しく機能する位置に取り付けられているか確認しておいて下さい。
12. ブレードにはじき跳ばされて、周囲に危険を及ぼす原因となるような棒切れ、針金、あき缶や石等の障害物は、芝刈りの現場から事前に取り除いておいて下さい。
13. グラスキャッチャーやサイドシュートを正しい位置に取付けて下さい。
14. 芝の排出口は絶対に、人や通りがかった車、建物の窓、ドア等の方へ向けてはいけません。

・注　意：運転前の準備

1. 初めて芝刈機を運転する時は、先ずブレードを停止したまま芝刈機の操作の練習をして操作方法を習得し、扱いに慣れて下さい。

4-2 運転時の注意

・警　告：運転時について

1. 室内、および換気の悪い場所ではエンジンを動かしてはいけません。
2. 排気ガスには無臭で有毒な一酸化炭素が含まれています。
3. 芝刈機への乗り降りは、必ず芝刈機の運転席から見て、左側から行って下さい。
4. 芝刈機を離れるときはブレードを停止し、エンジンを停止して、変速レバーをニュートラル「N」に入れ、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いておいて下さい。
5. 芝刈機は座席に正しく座り、ブレードペダルに足をかけてから運転して下さい。
6. ブレードが回転しているデッキの下部に手や脚を近づけないで下さい。
7. ブレード回転中や芝刈機が動いている時は足を地面につけないで下さい。
8. 芝刈機の方向を変えるときは、予めスピードゆるめて下さい。
9. 芝刈機が移動して、足がブレードに触れないように充分注意して下さい。

・警　告：運転時について

10. 芝を刈る時以外はブレードレバーを「OFF」にしておいて下さい。
11. 芝刈機を後退させるときは、芝刈機の後方一帯の子供やペット、危険な場所などの安全をよく確認して下さい。
12. 後退しながらの芝刈りはしないで下さい。
13. 荷物（車）を引く時は安全に充分注意して下さい。芝刈機と荷車との連結板での接続はスナッパー社のアタッチメント取扱説明書に従って下さい。

・注　意：運転時について

1. 道路を横切るとき及び道路の近くや、交通のあるところで芝刈りをする時は通行する人や車に充分注意を払って下さい。
2. 見えない曲がり角や、潅木や木の周りは視界が悪いので特に注意を払って下さい。
3. 草が生い茂った場所で芝刈り作業をする場合は、刈高位置を最高にセットして作業して下さい。
4. 芝刈機が障害物に当たったら、すぐにエンジンを止め、ブレードを停止させてから、破損していたり、異常な個所がないか芝刈機を検査して下さい。もし破損していたら修理をしてから芝刈機を使用して下さい。
5. 芝刈りは日中でも夜でも、充分に照明が確保できる場所で行って下さい。
6. 芝刈機をトラックに積み込んだり、おろすときは特に転落しないよう注意して下さい。
7. 芝刈機を牽引の用途に使用してはいけません。

4-3 運転後、整備時について

・警　告：運転後、整備時について

1. 芝刈機の点検・整備をする時は必ずエンジン停止して、キーを抜いて、駐車ブレーキをかけてプラグワイヤーをスパークプラグから抜いて、エンジンが冷えてから作業して下さい。
2. ガソリンの取扱いには充分注意を払い、下記の事項に従って下さい。
3. エンジンが動いている間は、燃料タンクのキャップを絶対に開けてはいけません。
4. 給油は屋外でエンジンを停止し、エンジンが完全に冷えてから行なって下さい。
5. ガソリンがこぼれたら、すぐに周りをきれいに拭いて下さい。
6. ガソリンは規格に合ったガソリン用の容器に入れ、通気のよい広い空間のある、子供の手の届かない屋内の冷暗所に保管して下さい。
7. 狭い場所で芝刈り機を保管するときは、エンジンが充分に冷えてから保管して下さい。
8. 芝刈機や、ガソリンの入った容器は次のような場所で保管してはいけません。
   裸火のある場所。　温水器などのスイッチのスパークが出る場所。　高温な場所。
   乾燥機やガス器具を使用している場所。その他引火や着火の危険がある場所。
9. 手や指が損なわれれるのを防ぐため、デッキやブレードにつまった草や葉など、作業の妨げになるようなものを取り除くときは、ブレードレバーを「OFF」の位置にして，エンジンを停止しブレードが完全に止まったのを確認して下さい。
10. エンジンのガバナースプリングに手を加えたり交換したりして、正しく調整されているスピードを変えたり、エンジンの最高回転数を上げたりしてはいけません。

・注　意：運転後、整備時について

1. 芝刈機は使用シーズンが終る毎に年に一度、及び新しい安全装置が装備されることになった時に販売店で点検，整備をうけて下さい。
2. 芝刈機の整備の際に交換部品が必要な場合は、スナッパーの純正交換部品を使用して下さい。
3. 頻繁に全てのボルト、ナット、スクリュー類をチェックし、緩んでいればしっかりと締め付け、その度に点検、修理、調整を行ない、又必要であればブレーキを交換して下さい。
4. この取扱説明書に従って各部の動きが悪くならないように、定期的に注油して下さい。
5. グラスキャッチャーを使用する時は、グラスキャッチャーを構成する部品を時々点検し、安全の確保上、交換を必要とするような古くなったり弱くなったりした部品は、新しい部品と交換して下さい。

5.　始動前の点検

芝刈機を始動させる前に次の各部分の点検，調整を行ないます。

・警　告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行なう際には、必ず次の事を確認してから行なって下さい。

1．エンジンを完全に停止します。
2．点火スイッチを「OFF」にし、キーを抜いておきます。
3．スパークプラグからプラグキャップを抜いておきます。
4．駐車ブレーキを掛けておきます。
5．エンジンが完全に冷えてから作業します。

5-1 タイヤ

- 傷の有無を確認し、傷がある場合は販売店へお知らせ下さい。
- 空気圧を点検し、下記の空気圧に調整して下さい。

  前輪・後輪 ＝0.85kg/cm²

5-2 デッキ，シュートデフレクター

- デッキ、シュートデフレクターが定められた位置に確実に固定されているか確認し、取付けがゆるんでいる場合は増し締めを行なって下さい。
  （5頁参照）
- 破損の有無を確認し、破損部がある場合は販売店へお知らせ下さい。

5-3 エンジンオイル

エンジンの取扱説明書に従って4サイクルエンジンオイルをオイルゲージの「FULL」マークまで入れます。（図 5-1）

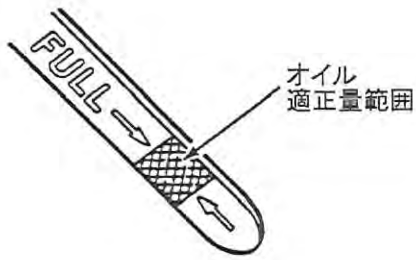


図 5-1

5-4 座　席

座席に座ってみて、運転操作しにくい場合には下記のように座席の位置を調整して下さい。

1. 左右2つのノブを反時計方向に回し、ゆるめます。（図 5-2）
2. 座席を前後にスライドさせ、操作がしやすい位置に調整して下さい。

   左右のノブをゆるめても、座席が前後に動かないときは、六角スクリューを少しゆるめて下さい。
3. 座席の位置が決まったら2つのノブをしっかりと締めて、座席の位置を固定して下さい。

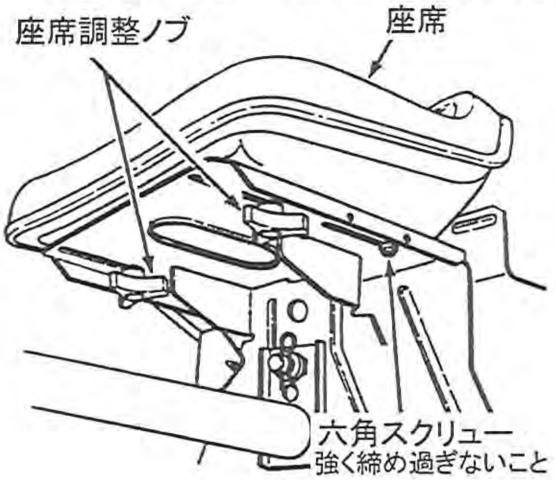


図 5-2

5-5 ブレードコントロール

ブレードペダルとブレードレバーの動きが確実であるか確認します。

ブレードレバーを「ON」にしてブレードペダルを足で踏みます。（図 5-3）

ブレードペダルから足を離した時にブレードレバーがスムーズに「OFF」に戻るかどうか点検します。

> **・注　意**
>
> **ブレードペダルを離した時に、ブレードレバーが「OFF」に戻らない場合は、ベルトの点検して下さい。**（31頁参照）

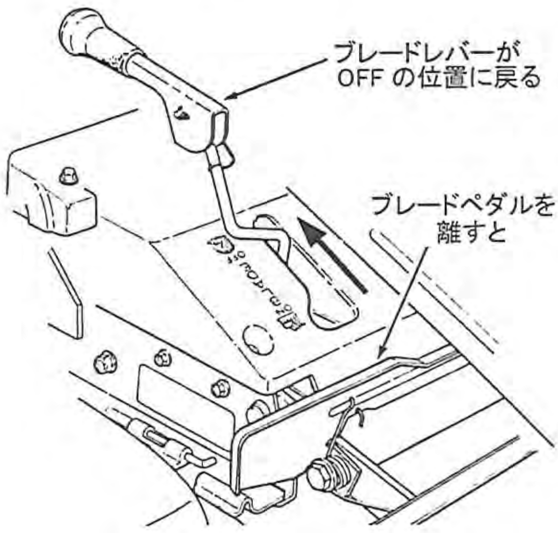


図 5-3

5-6 デッキ、エンジン

- デッキ及びエンジンの表面についたオイル、ほこり、草等を除去します。
- エンジンのエアクリーナーや冷却ファンはエンジンの取扱説明書を参照し、常にきれいにしておきます。

5-7 ガソリンの給油

> **・警　告**
>
> **給油の際には火の気のないところで行なって下さい。**
>
> **給油時や、ガソリンを使う作業を行なうときにタバコを吸ったり、引火の原因となるようなものを使ってはいけません。**

- 芝刈機を屋外の風通しの良い場所に出し、タンクに、きれいな、新しい無鉛レギュラーガソリンを適量入れます。
- 給油後はタンクキャップをしっかりと締めて下さい。
- 詳細はエンジンの取扱説明書を参照し、指示に従って下さい。
- タンクキャップの通気口を左に回して開きます。（図 5-4）

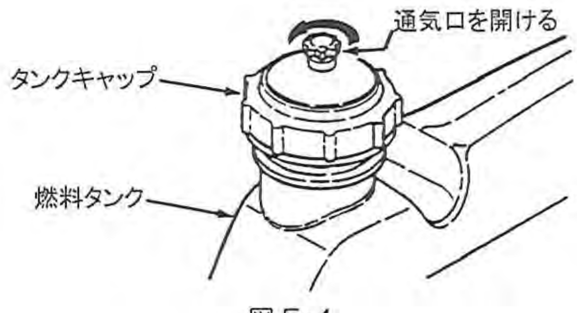


図 5-4

6. 始動、操作、停止

・警　告

芝刈機の近くや作業現場に子供などがいる場合はエンジンを始動してはいけません。
燃料、又は可燃物の近くでエンジンを始動してはいけません。

6-1 始　動

スナッパー乗用芝刈機はセルスタート式でエンジンが始動します。芝刈機の座席に座ってからキースイッチをスタートに回すと、エンジンはかかります。芝刈機の座席に座っていないとエンジンはかかりません。

① エンジン／セルスタートの手順

芝刈機の座席に座ってから、エンジンを始動します。

1. ブレードレバーが「OFF」の位置にあるか確かめます。（図 6-1）

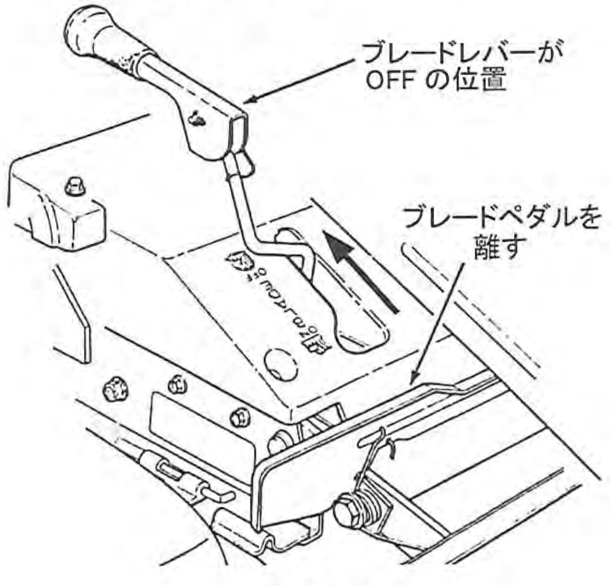


図 6-1

2. クラッチ／ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、駐車ブレーキラッチを押込んで「ON」にセットし、駐車ブレーキをかけます。駐車ブレーキラッチが「ON」に入っている間は、クラッチ／ブレーキペダルを離しても駐車ブレーキはかかっています。（図 6-2）

※ クラッチ／ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでいないとエンジンは始動しません。

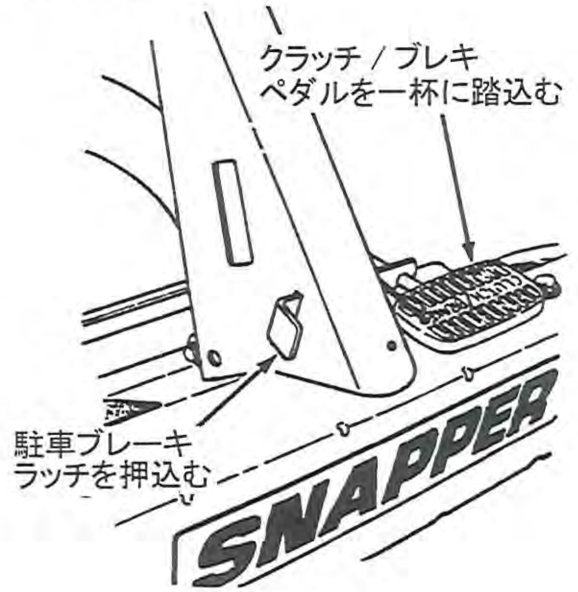


図 6-2

3. 変速レバーをニュートラル(N)に入れます。
変速レバーがニュートラルの位置でないと、エンジンは始動しません。（図 6-3）

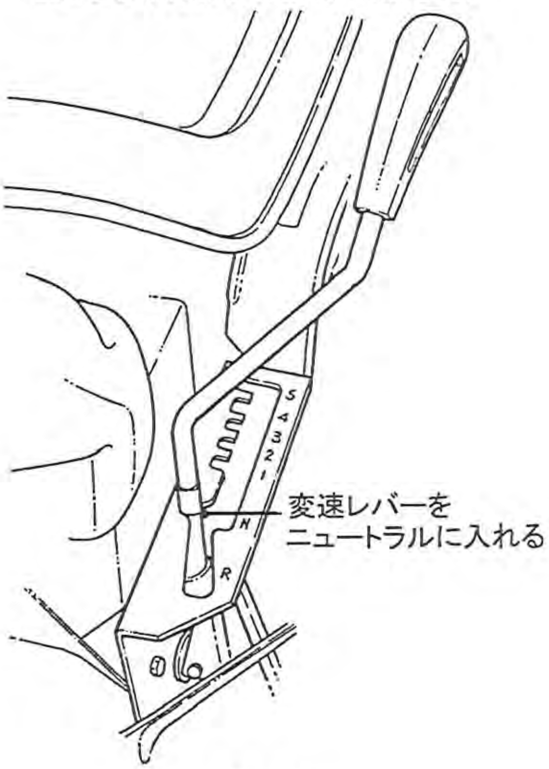


図 6-3

・注　意

エンジンを始動するときは、変速レバーはニュートラルの位置にしておいて下さい。

4. タンクキャップの上の通気口を開きます。（図6-4）

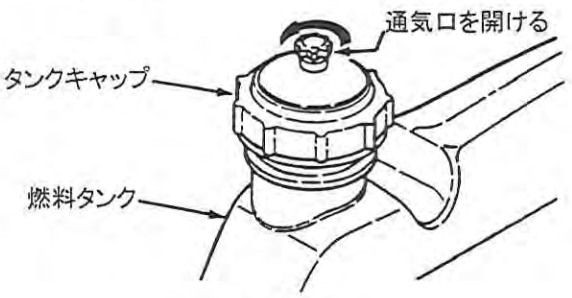


図6-4

付　記
✧ タンクキャップの上にある通気口を開かないと、エンジンが失速し、止まってしまいます。

5. スロットルレバーをチョークの位置にします。暖まったエンジンを停止直後に再始動する場合を除いて、エンジンを始動するときはチョークして始動して下さい。（図6-5）

図6-5

6. エンジンが始動するまでキースイッチを「START」の位置に回し続けます。但し、５秒以上つづけて回してはいけません。（図6-6）

・注　意
✧ ５秒間回し続けてもエンジンが始動しない場合は、キーを戻し、20秒経ってからもう１度スタートさせて下さい。
✧ 5秒以上長くセルを回し続けるとソレノイドが焼損する場合があります。

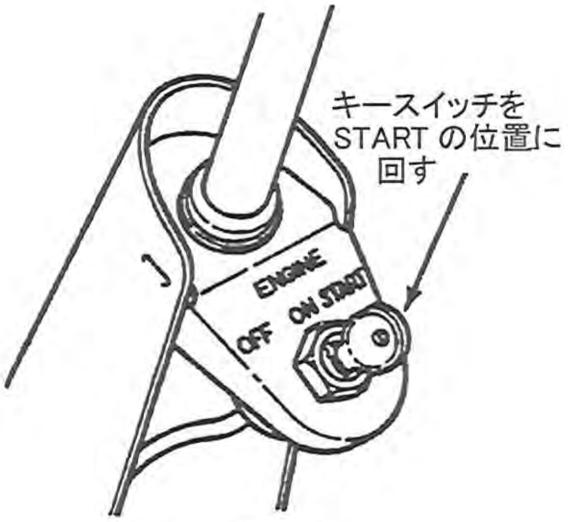


図6-6

7. エンジンがかかったら、スロットルレバーをFAST の位置に戻し、エンジンがスムーズに回転するまでしばらく暖機運転します。
8. バッテリーが弱くなって、エンジンの始動が困難になったら、次の「手動スタート」の手順でエンジンを始動させて下さい。

なお、バッテリーの充電については（33頁）を参照して下さい。

付　記
芝刈機のエンジンにはエンジンを定期的に運転することにより、バッテリーが自動的に充電される発電機が装備されています。

② エンジン／手動スタートの手順

1. （①エンジン/セルスタートの手順12頁）の1～5項と同様の手順を行なって下さい。
2. キースイッチを「ON」の位置に回します。（図6-7）

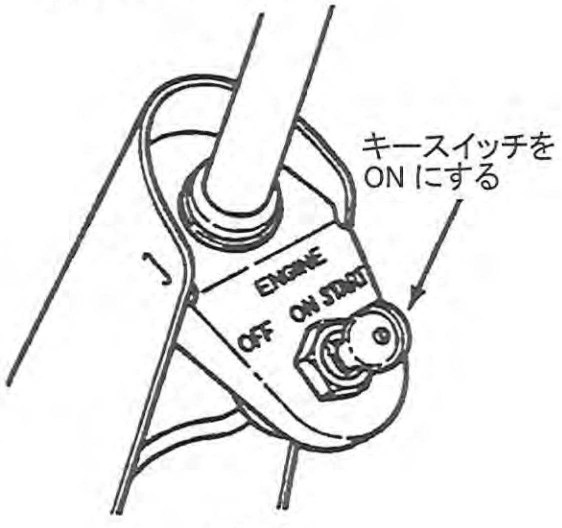


図6-7

3. スタートハンドルをエンジンが始動するまで数回引っ張ります。ハンドルは常に手でゆっくり戻します。エンジンがスタートしたら、スロットルレバーを「FAST」の位置に合わせます。
4. エンジンがスムーズに回転するまでしばらく暖機運転します。

6-2 走 行

1. クラッチ／ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでペダルを戻すと、駐車ブレーキラッチが外れて、駐車ブレーキが解除されます。（図6-8-1）

図6-8-1

2. クラッチ／ブレーキペダルを軽く踏み込み、踏んだまま変速レバーを１段に入れます。（図6-8）

> **・注 意**
>
> **前進１段、および後進に変速レバーを入れる時は、必ずクラッチ／ブレーキペダルを踏んで下さい。さもないとクラッチディスクのゴムが早期に摩耗します。**

3. クラッチ／ブレーキペダルをゆっくりと離すと、芝刈機は前進します。
4. 前進走行中に変速したい場合はクラッチ／ブレーキペダルを踏まずに、変速レバーを2～5段にいれます。（図6-8）

- 前進……………………1～5に入れる
- 後進……………………Rに入れる

5. 前進では、１が最も遅く、５では最も速くなります。
6. 後退するときはクラッチ／ブレーキペダルを軽く踏んで、変速レバーを「R」方向に押し付けながら、クラッチ／ブレーキペダルをゆっくり放します。

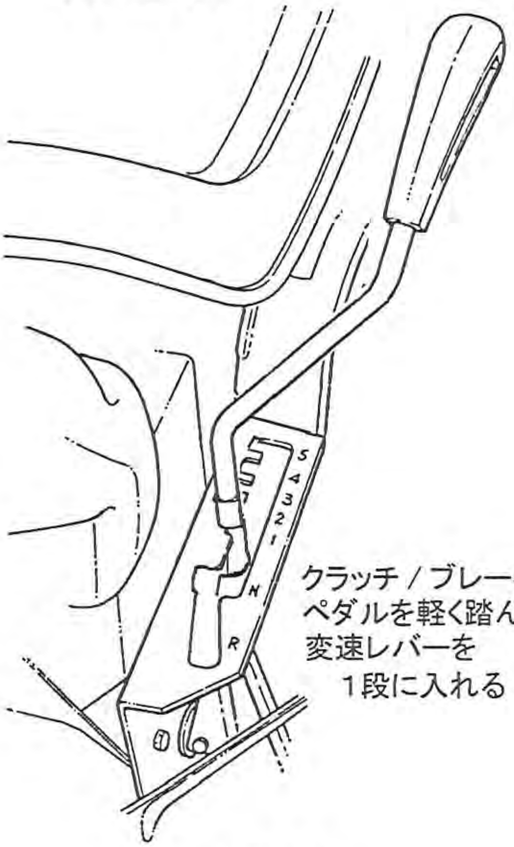


図6-8

6-3 走行の停止

1. 変速レバーを徐々に１段まで戻し、芝刈機を停止する場所に移動します。
2. クラッチ／ブレーキペダルを一杯に踏み込むと、芝刈機は停止します。
3. クラッチ／ブレーキペダルを踏み込んだまま、駐車ブレーキラッチを押し込んで、クラッチ／ブレーキペダルから足を放します。
4. スロットルレバーを低速に戻し、変速レバーをニュートラルにします。
5. エンジンをアイドリングで１～2 分冷却運転してから、停止します。

6-4 芝刈作業

変速レバーを低速に合わせ、スロットルレバーを「FAST」の位置にした状態が最も芝刈りに適しています。この状態の時、ブレードは１番スムーズに芝を刈れます。

① ブレードの作動

ブレードレバーを引き上げ、「ON」の位置にして、ブレードペダルを踏み込みます。（図 6-9）

ブレードペダルを踏んでいる間はブレードレバーは「ON」の位置に留まっています。

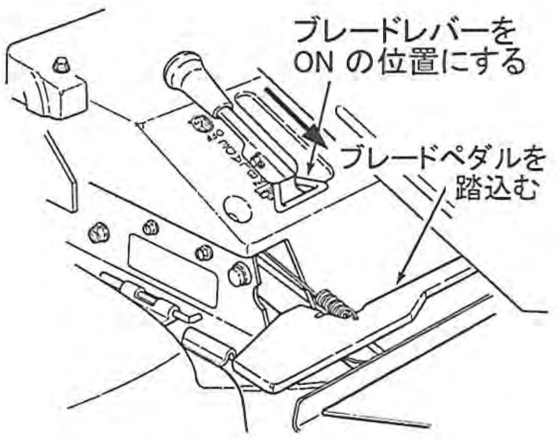


図 6-9

② 刈高の調整

刈高は 5 段階の高さに調整できます。刈高調整レバーを操作して、作業条件に適した高さに調整して下さい。（図 6-10）

1. 刈高調整レバーを上・下に動かし、適当な刈高に調整します。

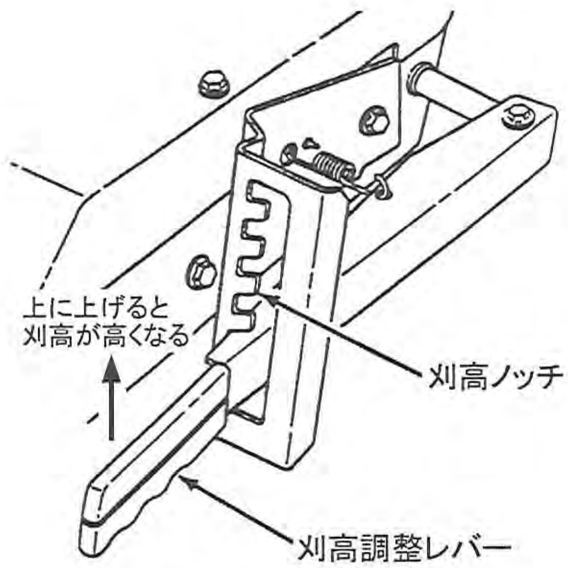


図 6-10

③ 芝刈について

芝の健康や、作業の能率の為に、以下の項目を御奨めします。

- 芝を刈る際には芝の高さの 1/3 程度にしてください。芝を深く刈り込むと、芝生に害を与えることがあります。
- 芝の高さが高い場合には、まず刈高調整レバーで刈高を最も高い位置に合せて下刈りを行い、それから希望する高さに合せて刈り込みを行なって下さい。
- 芝はあまり期間を置かずに、こまめに刈り込んでください。短く刈り込まれた草切れは早く腐敗し、芝の成長を助けます。
- 芝が乾いている状態で刈込んでください。濡れた芝は刈りづらく、各部に付着しやすいため作業能率が減少します。
- 芝を刈込む方向を毎回交互に変えておくと芝がもつれ難くなります。
- 芝刈機のブレードは常に鋭く保っておいてください。鈍いブレードは芝を痛める原因となります。
- 芝刈後はデッキに付いている草切れなどを取り払って、きれいにしておいて下さい。

6-5 停　止

① エンジンの停止

エンジンを停止するには、スロットルレバーを低速に戻し、1～2 分アイドリング回転させてから、キースイッチを「OFF」の位置に回します。（図 6-11）

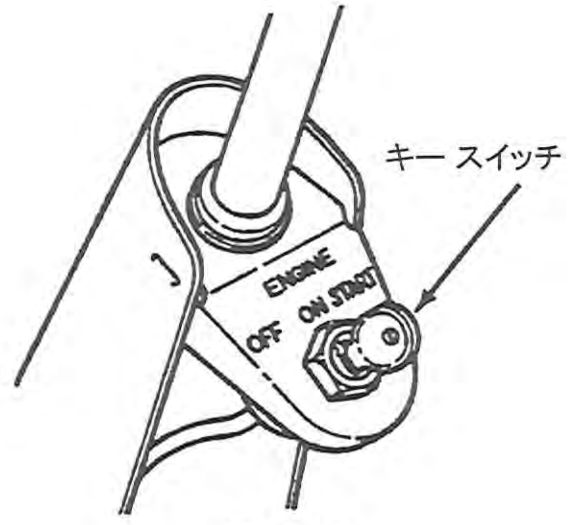


図 6-11

② 走行の停止

1. 芝刈機はクラッチ／ブレーキペダルをいっぱいに踏み込むと停止します。（図 6-12）
2. クラッチ／ブレーキペダルは途中まで踏み込んだ時はクラッチとして機能し、変速レバーをチェンジすることができます。
3. いっぱいに踏み込んだ時にはブレーキとして機能します。

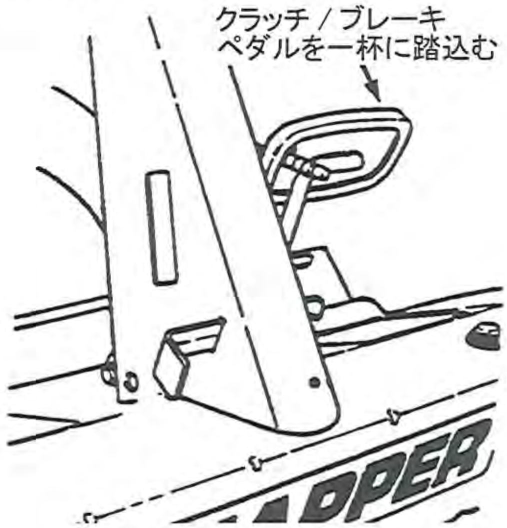


図 6-12

③ ブレードの停止

1. ブレードはブレードペダルから足を離すか、ブレードレバーを「OFF」にセットすると停止します。（図 6-13）
2. ブレードペダルは足を離すと、ブレードレバーが素早く戻り、3 秒以内にブレードが完全に停止します。
3. もし3秒たってもブレードが回転し続けている場合はブレードブレーキの調整が必要です。（24 頁）を参考にして調整して下さい。なお、作業に不慣れな人は販売店で調整を受けて下さい。

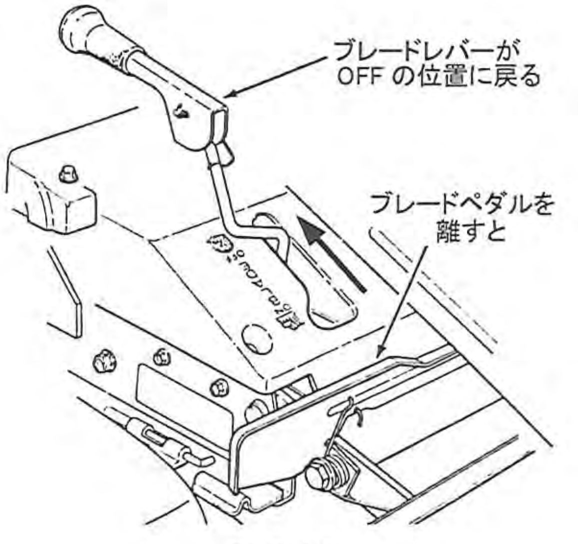


図 6-13

・警　告

ブレードペダルから足を離して、3 秒以内にブレードが停止しない時は、芝刈機を運転してはいけません。

④ 駐車ブレーキ

1. クラッチ／ブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。（図 6-14）
2. そのまま、駐車ブレーキラッチを押込んで「ON」にします。

- 駐車ブレーキラッチが「ON」の位置にある間はクラッチ／ブレーキペダルを離しても駐車ブレーキはかかった状態になっています。
- 駐車ブレーキはクラッチ／ブレーキペダルを踏み込むと、駐車ブレーラッチーが戻り、ブレーキが解除されます。

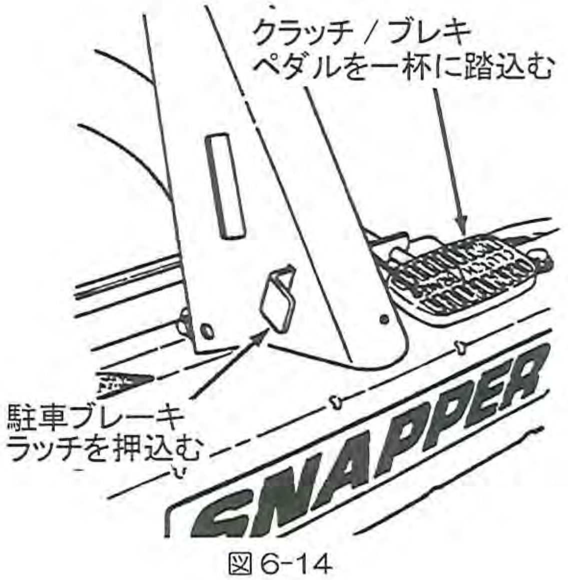


図 6-14

・警　告

芝刈機は絶対に傾斜面等で傾いた状態で駐車してはいけません。

・警　告

エンジンが回転しているときは、絶対に芝刈機から離れてはいけません。
芝刈機から離れる時はエンジンを止めて

1. **ブレードレバーを「OFF」にしてブレードを停止させます。**
2. **変速レバーをニュートラルに入れます。**
3. **駐車ブレーキをかけます。**
4. **エンジンキーを抜き取って下さい。**

6-6 リバースロックアウトメカニズム

- 統計によると毎年 芝刈機を後退して運転している時に悲惨な事故が発生しています。
- これらの事故はいつも保護者の目から離れた子供を巻き添えにしています。
- 多くの場合これらの子供たちは芝刈機に乗りたがるもので、芝刈機の潜在的な危険性について訓練するよりも、むしろ危険を避ける方法を教えることが重要です。
- この乗用芝刈機は、リバース ロックアウト メカニズムを取付けてあります。（図6-15）
- **リバース ロックアウト メカニズムは、ブレードが回転中に変速レバーを後進の位置に入れることを防止しています。**
- 変速レバーを後進に入れるときは、最初にブレードの回転を停止してから、変速レバーを後進の位置に入れます。
- これらの操作方法はメーカーの希望することでありますが、リバース ロックアウト メカニズムは芝刈機の運転者が、ブレード回転中は芝刈機を後退しないという習慣を身につけることになります。
- 安全な運転方法は、後退時にはブレードを停止することです。
- 後退する前と、後退中には後の方向を中心に周囲を良く観て、低い位置の子供や、ペット及び障害地を十分に注意して、運転することです
- スナッパー社は事故の原因となる、芝刈り前の準備方法を変えることを実現しました。
- スナッパー社は、お客様がこの新しいシステムに適応できるよう手助け致します。

・注　意

リバース ロックアウト メカニズムを必ず使用して下さい。決してこのメカニズムを使用せずに運転してはいけません。

- 芝刈機が一般道路に近づいたり、アタッチメントを使用中に、急速に変速レバーを後進の位置に入れる必要があるときに、オーバーライドレバーが装備してあります。（図6-15）
- ブレードを回転させる前に、このオーバーライドレバーを押したままにしておくとブレードペダルから足を離すまでの間ブレードを回転させて芝刈機を後退させることが出来ます。
- どちらの場合を選んでもこのシステムはリバースロックアウトに戻すことが出来ます。
- 芝刈り現場に子供やペットが完全に居ないことを確認しない限り、この特長（オーバーライドレバー）を決して使用してはいけません。
- また、すべての子供達がいなくなって、責任ある大人が監督している場合でも同様です。

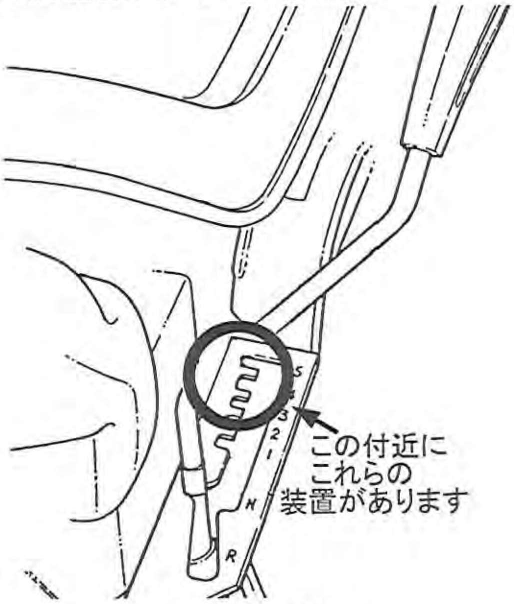


図6-15

6-6-1 リバース ロックアウト メカニズムのオーバーライド（無効にする）

1. 芝刈機を停止して、ブレードを止めます。
2. オーバーライド レバーを押しておきます。
3. ブレードペダルを踏み込んだままオーバーライドレバーを放します。
4. ブレードレバーを「ON」に入れます。
5. リバース ロックアウト メカニズム モードに戻すには、ブレードペダルから足を離してブレードの回転を止めます。

・注　意

リバース ロックアウト メカニズムのオーバーライド（無効にする）は、通常の運転中には絶対に使用してはいけません。

・危　険

後退する時は、芝刈機の陰や下に子供やペットが居ないか、良く観て下さい。

後退する時は、必ずブレードの回転を止めて下さい。

芝刈機作業中は、ブレードを止めていても、子供を芝刈機に乗せたり、芝刈り現場に立ち入らせてはいけません。

6-6-2 リバース ロックアウト メカニズムの点検

- 芝刈機を使用するたびに、リバース ロックアウト メカニズムが適正に機能するか、次の手順で点検します。
- 点検作業の前にこの説明書をよく読んで、理解して下さい。

1. エンジン始動前の点検を行ないます。
2. 芝刈機を子供やペットが完全に居ない、広くてきれいな場所に移動します。
3. エンジンを始動してブレードペダルを踏み込んでいる時は、リバース ロックアウト メカニズムが作動して、変速レバーは後進の位置には入りませんから確認します。

・注　意

リバース ロックアウト メカニズムが適正に機能しない時は芝刈機を運転してはいけません。販売店で修理してから使用して下さい。

7. 整　備

- 部品の交換が必要になった時は、芝刈機の品質を損なわないよう、スナッパーの純正交換部品だけをご使用下さい。
- 整備の際に必要な、純正部品や商品に関する情報は最寄りの代理店や販売店にてお求め下さい。又、年に1度は販売店に芝刈機を点検してもらい、安全装置等が改良されている場合には取り付けてもらうことをお薦めします。

・警　告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行なう際には、必ず次の事を確認してから行なって下さい。

1.エンジンを完全に停止します。
2.点火スイッチが「OFF」にし、キーを抜いておきます。
3.スパークプラグからプラグキャップを抜いておきます。
4.駐車ブレーキを掛けておきます。
5.エンジンが完全に冷えてから作業します。

・注　意

エンジンの整備についてはエンジンの取扱説明書を合わせて御読み下さい。

7-1 最初の使用5時間後の点検

① エンジンオイルの交換

次の手順でオイルを交換します。

1. レンガやブロックを前輪の下において、エンジンの後部が低くなるように傾けます。
2. オイル注入口のキャップをゆるめます。
3. オイルドレインプラグをゆるます。
4. オイル排出口の下に、最低2ﾘｯﾄﾙ以上の容器を置き、オイルドレインプラグを開けます。（図7-1）

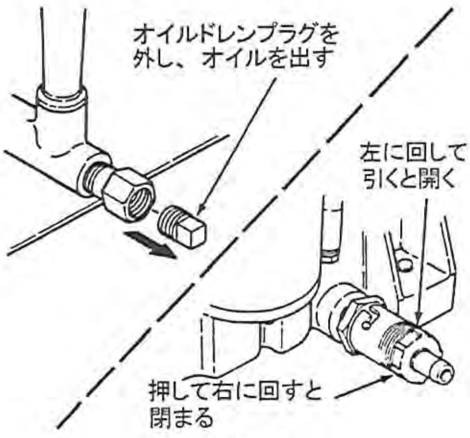


図7-1

5. オイルが全て流れ出たらドレンプラグを閉めて、こぼれたオイルを拭き取ります。
6. エンジンの取扱説明書に従ってオイル注入口から、新しいエンジンオイルを入れます。
7. エンジンの取扱説明書に従って、エンジンのオイルフィルターを交換します。

② エアークリーナーの掃除

エンジンの取扱説明書に従って、エアークリーナーを掃除します。

③ ブレードの点検

1. 燃料タンクに燃料が3/4以上入ってる場合は、3/4以下になるよう燃料を戻して下さい。
2. タンクキャップの通気口を閉めます。
3. 駐車ブレーキをかけます。
4. リアバンパーを下にして、芝刈機をゆっくりと立てます。この作業は2人以上で行なって下さい。

・注　意

バッテリーは芝刈機を立てた状態でも電解液がこぼれないように設計されていますが、2時間以上立てたままにしておく場合は予めバッテリーを外して下さい。

5. ブレードを止めているボルトがしっかり締まっているか確かめます。緩んでいる場合は規定のトルクで締め付けて下さい。
   マウントボルトの締付けトルク 4.5～5.5kgf-m です。（図7-2）

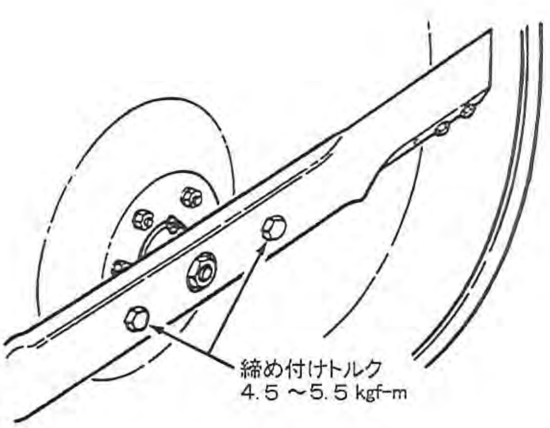


図7-2

6. ブレードの刃が鋭くなっているか、擦り減ったり傷ついたりしていないか調べます。
7. ブレードが曲がったりしていないか調べめます。（31頁参照）

・警　告

過度に擦り減っていたり傷ついているブレードは絶対に使用してはいけません。
（ブレードの修理・交換30頁）の項に従って点検、交換して下さい。

④ ベルトの点検

1. ベルトカバーを外す
   a. デッキの高さを１番低くセットします。
   b. ベルトカバーの左右に２本ずつある４本のセルフタッピングネジを外します。（図 7-3）

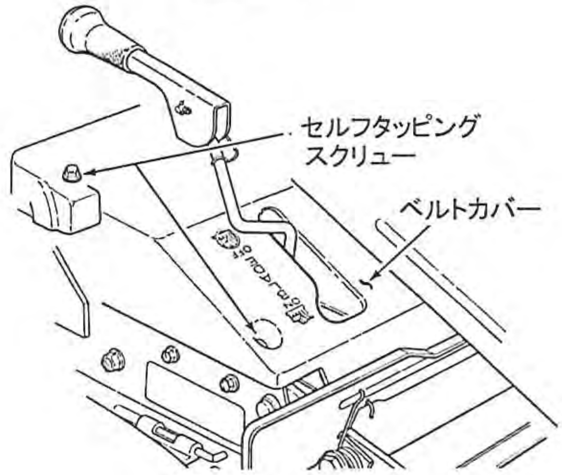


図7-3

   c. カバーを後方へスライドさせ、デッキの左側に回して取り外します。
2. ベルトの点検
   ベルトを点検して、過度に擦り減っていたり傷が付いていれば交換して下さい。（図 7-4）

付　記

ベルトはテンションスプリングで常に適正に張られていますから調整する必要はありません。

もしフロントフレームのクランプを弛めてしまったら、次の方法でベルトの張りの調整します。

1. 刈高調整を３段の位置にします。
2. ブレードレバーを「ON」にします。
3. 可動アイドラープーリーとベルトの内側の距離が３３～３４ミリになるよう、フロントフレームを引っ張って調節します。（図 7-4）
4. フロントフレームのクランプをしっかり締めます。（図 7-4-2）

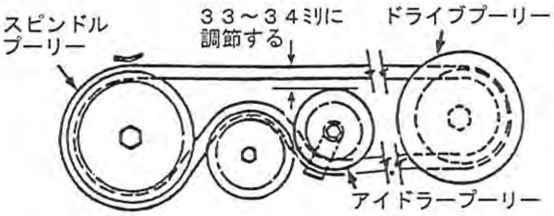


図7-4

図7-4-2

ベルトの張りを正しく調節したら、必ずクラッチ・ブレーキケーブルのたるみが４～５ミリあるか点検します。

1. クラッチ・ブレーキペダルを開放し、ペダルをクラッチが接続している位置にします。
2. クラッチ・ブレーキケーブルのたるみが４～５ミリあるのが正常です。もしケーブルのたるみが適正でないときは次の方法でケーブルのたるみを調節します。
   a. クラッチ・ブレーキペダルのゴムカバーを外し、ケーブルの金輪をペダルの前側または後側に移動してケーブルのたるみを約５ミリに調節します。（図 7-4-3）
   b. 調節が終ったらゴムカバーを元に取り付けます。

図7-4-3

・注　意

ケーブルの遊びが多すぎるとクラッチが切れなくなり、又ブレーキが効き難くなります。

ケーブルの遊びが少ないと、クラッチが滑ります。必要ならブレーキの調整およびクラッチの調整（ﾍﾟｰｼﾞ）の項を参考にして下さい。

⑤ ブレードブレーキの点検

1. ブレードペダルから足を離すと，自動停止装置によりブレードレバーが素早く戻り、3秒以内にブレードが完全に停止します。
2. もし3秒たっても、ブレードが回転し続けている場合は、ブレードブレーキを調整して下さい。（24 頁参照）なお、作業に不慣れな人は販売店で調整を受けて下さい。

・警　告

ブレードペダルから足を離して、3秒以内にブレードが停止しない時は、芝刈機を運転してはいけません。

⑥ 駐車ブレーキの点検

駐車ブレーキを掛けて、芝刈機を押すと後タイヤがスリップすればブレーキは効いています。

又は5速で走行し、ブレーキを掛けたとき 1.5 ﾒｰﾄﾙ以内で停車すればブレーキは効いています。

ブレーキが良く効かない時はブレーキを調整して下さい。（30 頁④参照）

⑦ インターロック（安全装置）の点検

次の状態ではインターロックが作動してエンジンは始動しません

- クラッチ／ブレーキペダルを踏み込んでいない。
- ブレードレバーが 「ON」 にはいっている。

次の状態で座席から離れると、エンジンとブレードが停止します。

- クラッチ／ブレーキペダルを踏み込んでいない。
- ブレードレバーが 「ON」に入っている。

・注　意

インターロックが正しく作動していないときは販売店で点検を受けて下さい。

⑧ リバースロックアウトメカニズムの点検

- エンジンを停止します。
- ブレードペダルを踏み込んだままにします。
- クラッチブレーキペダルを踏み込んだままにします。
- 変速レバーが後進の位置に入らないことを確認します。

⑨ 各部へのグリス給油

次の 3 ヵ所に一般用グリスを給油して下さい。（7-3 参照）

- 前車軸ベアリグ
- 後車軸ベアリング
- ブレード回転軸

7-2 作業時間 25 時間毎の点検

① 5 時間毎の点検を行なって下さい。

② エンジン

1. エンジンオイル

   エンジンの取扱説明書を参照してエンジンオイルを交換します。
2. エアークリーナー

   エンジンの取扱説明書に従って常にきれいに掃除しておきます。

③ バッテリー液量の点検

1. バッテリーを芝刈機から取り出します。（33 頁参照）
2. セルキャップを外しバッテリー液の量を点検します。
3. バッテリー液の量が足りなければ 蒸留水を適正なレベルまで補充します。
4. **バッテリー液をセルから溢れさせてはいけません。**
5. セルキャップを取付け、バッテリーを芝刈機に装着します。

④ デッキの水平度の点検

26 ページを参照してデッキの高さ（左右および前後）を点検し、高さが適正でなかったら正しく調整して下さい。（26～27 頁参照）

⑤ デッキの掃除

芝刈機を立てて、デッキ裏側の草やゴミを取り除き掃除します。

a. キースイッチを抜き、エンジンを停止します。
b. エンジンが冷えるまで待ちます。
c. スパークプラグワイヤーをプラグから抜き、スパークが飛ばない場所におきます。
d. タンクキャップの上の通気口を閉めます。
e. 燃料タンクに燃料が3/4 以上入ってる場合は、3/4 以下になるよう燃料をタンクから戻して下さい。（24 頁参照）
f. リアバンパーを下にして芝刈機をゆっくりと立てます。

⑥ ブレード回転軸の潤滑

リアバンパーを下にして芝刈機を立て、グリスガンでデッキとブレードの間のニップルに３回グリスを注油します。（図 7-5）

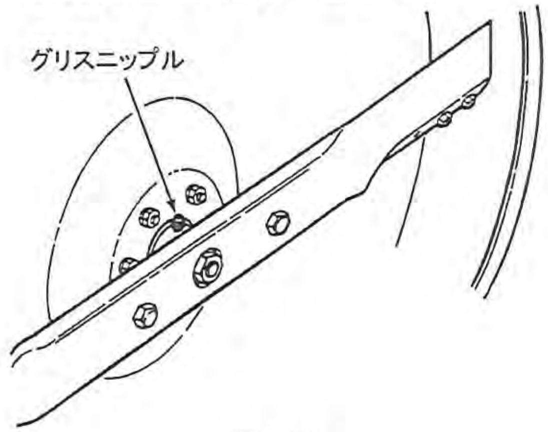


図 7-5

> **・注　意**
> **2時間以上リアバンパーを下にして芝刈機を立てておく場合はバッテリーを外しておきます。**

⑦ デッキ連結部の潤滑

デッキ各連結軸部に４サイクルエンジンオイルをうすく塗ります。

⑧ 前車軸ベアリグ

リアバンパーを下にして芝刈機を立てます。前車軸ベアリングのニップルにグリスガンでグリスを５回注油します。（図 7-6）

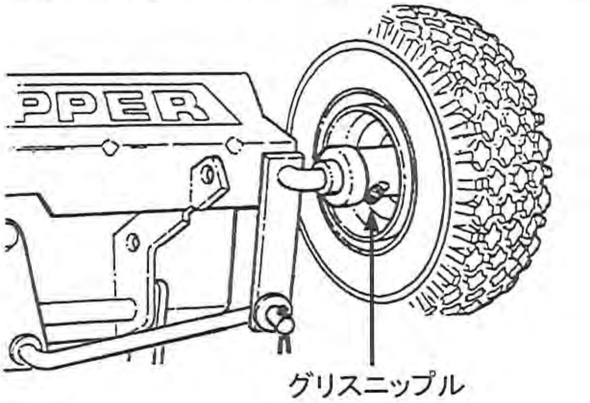


図 7-6

⑨ 後車軸ベアリング

33 インチのデッキ付きは左後車軸ベアリングがシールドベアリングですから、注油は必要ありません。

1. 右後車軸ベアリング

右後車軸ベアリングはデファレンシャル内のオイルで潤滑されますから注油は必要ありません

2. デファレンシャルケースへの注油

以下の手順でデファレンシャルに注油します。

a. リアバンパーを下にして芝刈機をゆっくりと立てます。

b. フィル/レベルプラグに傷や摩耗が無いか調べます。プラグに傷や摩耗があれば、プラグを交換して下さい。

c. フィル/レベルプラグを外し、デファレンシャルケースの中の潤滑油の量を目視で確認し、潤滑油が見えない程少ない時は販売店，代理店で スナッパー"00"グリスを注油して下さい。（図 7-7）

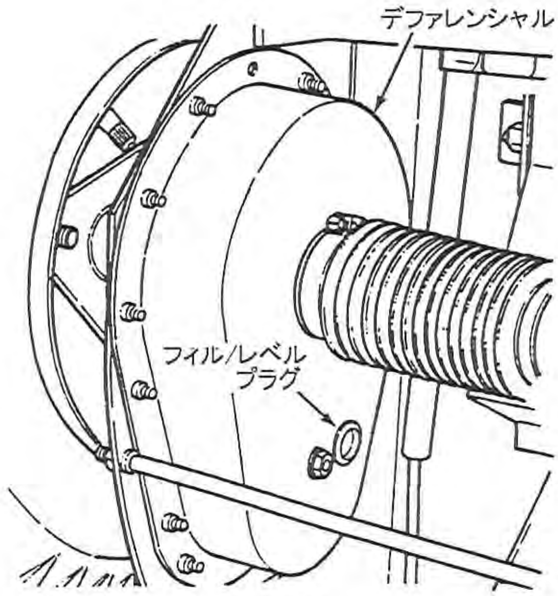


図 7-7

> **・注　意**
> **デファレンシャルの中に潤滑油が入り過ぎると駆動部分に漏れて故障の原因になります。**

1．チェーンケース

a フィル/レベルプラグに傷や摩耗が無いか調べます。プラグに傷や摩耗があれば、新しいプラグと交換して下さい。

（図 7-8）

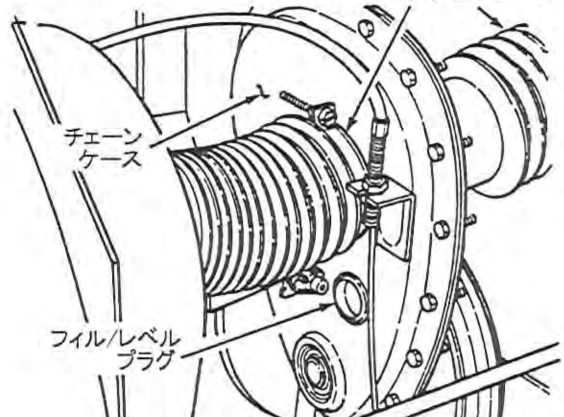


図 7-8

b　フィル/レベルプラグを外し、チェーンケース内の潤滑油の量を目視で確認して下さい 潤滑油が見えない程少ない時は販売店，代理店でスナッパー″00″グリス注油して下さい。（図 7-8）

2.　アクセルブーツ

アクセルブーツに傷や摩耗が無いか調べ、傷や摩耗があれば販売店にご連絡下さい。（図 7-8）

⑩ エンジンの点検

定期点検表に従ってエンジンの点検を行なって下さい。

7-3　1年間使用後の点検

① エンジン

エンジンの取扱説明書に従ってエンジンを整備、点検します。

② 燃料フィルター

エンジンが冷えている時に、次の方法で燃料フィルターを交換します。

付　記
燃料がこぼれるのを防ぐため、燃料タンクをブラケットから外し、燃料液面がフィルターより下になるように地面に置きます。

1.　ホースクランプを燃料フィルターから外します。
2.　フィルターからホースを外し、古いフィルターは処分します。（図 7-9）
3.　新しいフィルターを取り付けます。
4.　燃料タンクをブラケットに戻します。

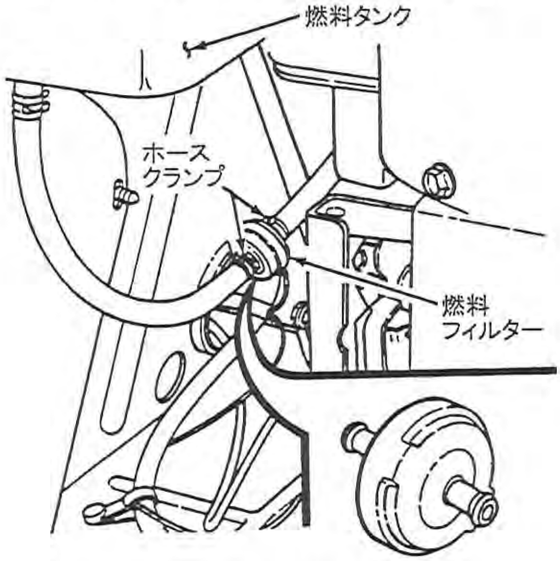


図 7-9

③ デッキ

1.　デッキに詰まった草やゴミを取り除き、きれいにします。
2.　（25 頁 8-2)の項に従って整備と潤滑を行って下さい。

7-4　2年ごとの点検

通常の整備に加えて2年ごとに芝刈機の各部に傷や摩耗が無いかよく調べます。

古くなったり傷ついた部品は新しいスナッパーの純正部品と交換すること。純正部品は販売店、代理店にてお求め下さい。

A.　すべての連結部分、およびブッシュ
B.　キングピン、アクセル
C.　変速レバー
D.　クラッチディスク
E.　クラッチヨーク
F.　デッキの通風孔、連結部分

7-5　保管（使用シーズン外）

保管前には、次の指示に従って芝刈機を点検、整備しておきます。

1.　芝刈機についた草やゴミをすべて取り去ります。
2.　37 ページ 25 時間毎の整備に従って整備と潤滑を行います。
3.　燃料をタンクから抜きます。
4.　エンジンを始動し、燃料がなくなるまで回し続けます。これは保管中にキャブレター、及び燃料系統をきれいに保つためです。
5.　バッテリーを外します。
6.　燃料タンクキャップの上の通気口を閉めます。
7.　狭い場所に保管する時はリアバンパーを下にして、ゆっくりと立てかけて保管して下さい。

① 燃料タンクの取り外し方

1．屋外の広い場所に芝刈機を移動して下さい。

2．燃料タンクを燃料タンクブラケットから真っ直ぐ上に引きぬいて下さい。（図 7-10）

3．燃料タンクキャップ外し、ガソリン専用の容器に余分な燃料を戻して下さい。

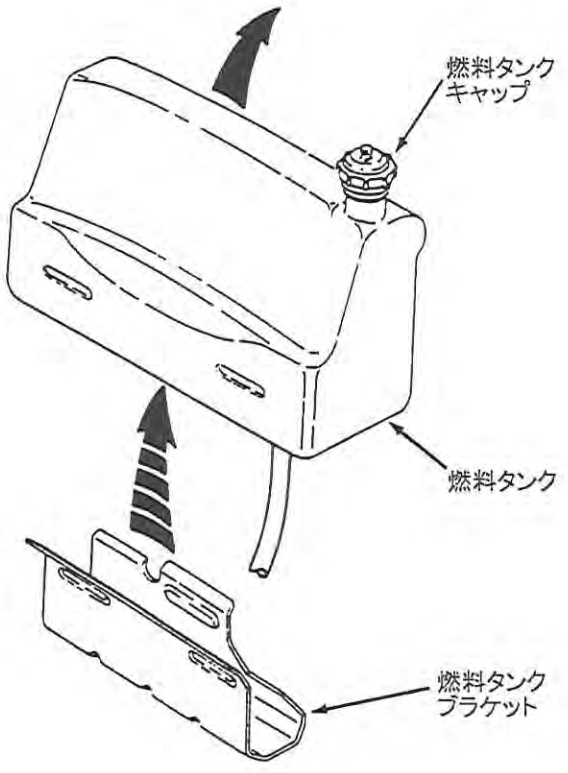


図 7-10

8. 調整と修理

・警　告
芝刈機やエンジンの点検・調整を行なう際には、必ず次の事を確認してから行なって下さい。
1. **エンジンを完全に停止します。**
2. **点火スイッチが「OFF」にし、キーを抜いておきます。**
3. **スパークプラグからプラグキャップを抜いておきます。**
4. **駐車ブレーキを掛けておきます。**
5. **エンジンが完全に冷えてから作業します**

・注　意
エンジンの整備についてはエンジンの取扱説明書を合わせてお読み下さい。

8-1 エンジンの調整、修理

エンジンの取扱説明書に従って調整、修理を行います。

8-2 デッキ、及び周辺部品の調整

デッキの水平度やその他の部分の調整・修理はお客様が行なうことができますが、もし間違った調整や、整備をしてしまったときは販売店に点検を依頼して下さい。

① ブレードブレーキの調整

・警　告
ブレードブレーキのテスト中は絶対にベルトカバーを外してはいけません。

1. エンジンをスタートさせ、ブレードレバーを「ON」にいれ、ブレードペダルを踏み込みます。
2. ブレードペダルを踏み込んだまま、スロットルレバーを「FAST」(高速)に合わせます。
3. ブレードペダルから足を離します。
(ブレードレバーが元に戻ります。)
4. ブレードレバーが戻ってから、3 秒以内にブレードが止まるかどうかをベルトカバーの後ろから見て確認します。
5. ブレードが3 秒以上回るようであれば、以下の項目に従ってブレードブレーキを調整して下さい。

・注　意
調整、修理の作業に不慣れな方は販売店にご依頼下さい。

a. ブレードレバーを「OFF」の位置にして、ブレードペダルから足を離した状態で、ブレードレバーとラッチプレート前方の縁の間の距離を測ります。その適正距離は76～82ミリです。測定した値が適正範囲から外れている場合、下記のように調整して下さい。(図8-1)

図8-1

・警　告
ブレードペダルから足を離して、3秒以内にブレードが停止しない時は、芝刈機を運転してはいけません。
必ずブレードブレーキを正しく調整してから芝刈機を使用して下さい。

b. ベルトカバーを外します。
(20ページ 図7-④参照)
c. 測定値が82ミリ以上の場合は、ナットを右に回して、ブレードブレーキの張りを強くして下さい。測定値が76ミリ以下の場合は、ナットを左に回してブレードブレーキの張りを弱くして下さい。(次ページ 図8-2)

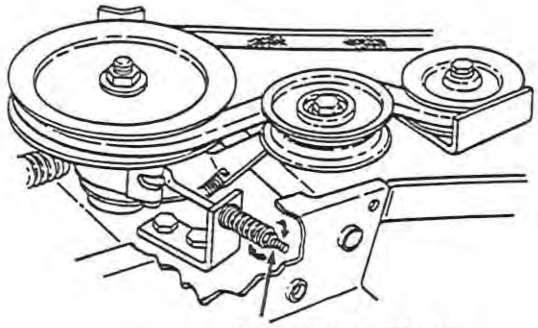


図 8-2

d. ベルトカバーを取り付けます。

8-3 ブレードの左右水平度の調整

> **付　記**
>
> ２時間以上、芝刈機を立てておく時はバッテリーを取り外して下さい。

1. スパークプラグワイヤーをプラグから抜き、スパークが飛ばない場所におきます。
2. タンクキャップの上の通気口を閉めます。
3. 燃料タンクに燃料が 3/4 以上入ってる場合は 3/4 以下になるよう燃料を戻して下さい。
4. リアバンパーを下にして芝刈機をゆっくりと立てます。
5. デッキのへりの任意の場所にチョークかテープなどで目安となる印をつけます。
6. ブレードの端にそれぞれ異なった印をつけます。

   ここでは１方に「A」、もう１方に「B」と印をつけたものとして説明します。
7. ブレードを回してデッキの印とブレードの「A」の印を合わせます。

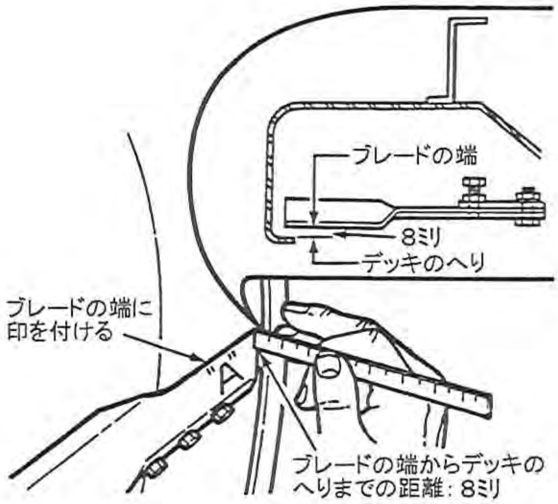


図 8-3

8. デッキのへりからブレードの端までの距離を測り、「A」の距離として記録します。（図 8-3）
9. ブレードを回し、デッキの印とブレードの「B」の印を合わせます。
10. デッキのへりからブレードの端までの距離を測り、「B」の距離として記録します。
11. 「A」の距離と「B」の距離の差が 1.5 ミリ以上ある場合や、どちらかの距離が８ミリではなかった場合には下記の手順でブレードを調整します。

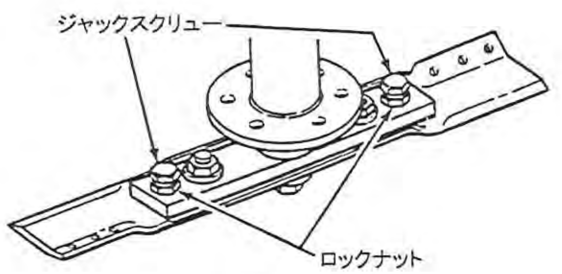


図 8-4

a. ロックナットをゆるめます。（図 8-4）

b. ジャックスクリューを回し、「A」、「B」の距離の差が 1.5 ミリ以内に、デッキのへりからの距離が８ミリになるように調整します。

c. ロックナットをしっかりと締付けます。

8-4 デッキの前後の高さ調整

デッキの高さを調整する前に、タイヤの空気圧を正しく調整して下さい。

前輪・後輪 ＝0.85kg/cm²

> **・警　告**
> **芝刈機やエンジンの点検・調整を行なう際には、必ず次の事を確認してから行なって下さい。**
> **1.エンジンを完全に停止します。**
> **2.点火スイッチが「OFF」にし、キーを抜いておきます。**
> **3.パークプラグからプラグキャップを抜いておきます。**
> **4.駐車ブレーキを掛けておきます。**
> **5.エンジンが完全に冷えてから作業します**

① デッキの左右高さの調整

1. 芝刈機を固く平坦な場所に移動して下さい。
2. 駐車ブレーキを掛けて下さい。
3. エンジンが完全に停止し、キースイッチが「OFF」になっていることを確認して下さい。
4. スパークプラグからプラグキャップを抜いて下さい。
5. ブレードレバーを「OFF」の位置にして下さい。
6. 刈高調整レバーでデッキを1番高い位置に上げて下さい。
7. デッキ後部の中心に5センチくらいのアングルを前後方向にあてがって下さい。
8. 後部のハンガーチェーンを外し、デッキがアングルにあたるまでデッキを降ろします。
9. ブレードの先端がデッキの左右両端にくるようにブレードを動かします。

> **・警　告**
> **ブレードを扱う際には、保護手袋をつけて十分注意してください。**

1. デッキの両側でブレードの先端から床までの高さを測って下さい。。
2. 左右の高さの差が3ミリ以上だった場合、調整が必要です。以下の手順に従って、調整を行って下さい。
   a. ブレードペダルの左側のショルダーボルトをゆるめて下さい。
   b. ショルダーボルトの反対側のエキセントリックを左右に回して、左右のブレードの高さの差が3ミリ以内になるように調整して下さい。（図 8-5）

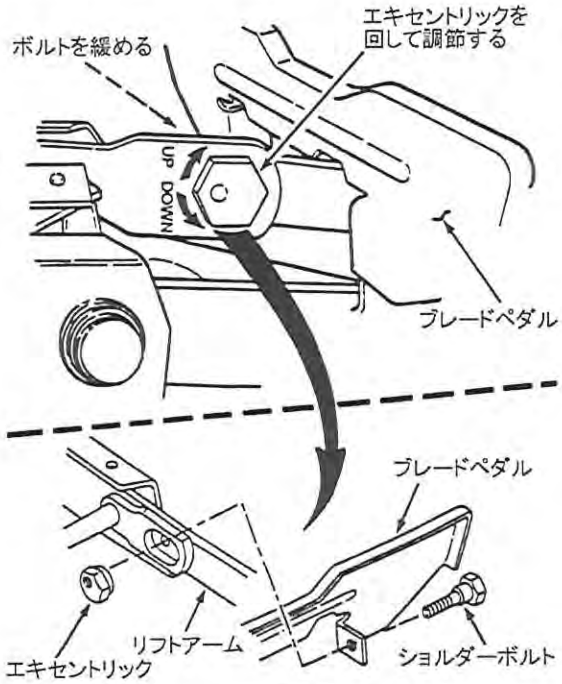


図 8-5

   c. ショルダーボルトを固く締め付けて下さい。
   d. 後部ハンガーチェーンを左右均等に規定の高さに調整し、元の場所に取り付けます。（図 8-6）

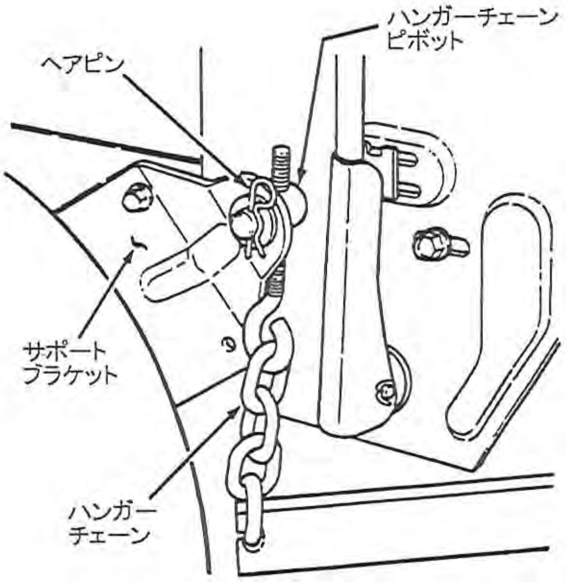


図 8-6

② デッキの前後の高さの調整

1. 芝刈機を固く平坦な場所に移動して下さい。
2. 駐車ブレーキを掛けて下さい。
3. ブレードレバーを「OFF」の位置にして下さい。
4. エンジンを完全に停止し、スイッチが「OFF」になっていることを確認して下さい。

5. スパークプラグからプラグキャップを抜いて下さい。
6. 刈高調整レバーでデッキを１番高い位置に上げて下さい。
7. ブレードの先端がデッキの前後両端にくるようにブレードを動かします。

> **・警　告**
> **ブレードを扱う際には、保護手袋をつけて十分注意して行なってください。**

1. ブレード両端の先端から床までの高さを測って下さい。
2. 前後の高さが同じか、後ろが3～6 ミリ以上低い状態が正常です。

   もし後ろが前より高いか、又は後ろが前より6 ミリ以上低い場合は、次の手順に従って調整して下さい。（図 8-7）

   a. 後部ハンガーチェーンをアイボルトから外します。
   b. 両方のハンガーチェーンピボットのアイボルトを同じ回数づつ回し、デッキの後部を上げるか又は下げて前後の高さを調節します。（アイボルトのピッチ1．4ミリ）

      アイボルトは必ず、左右同じ回数づつ回して下さい。

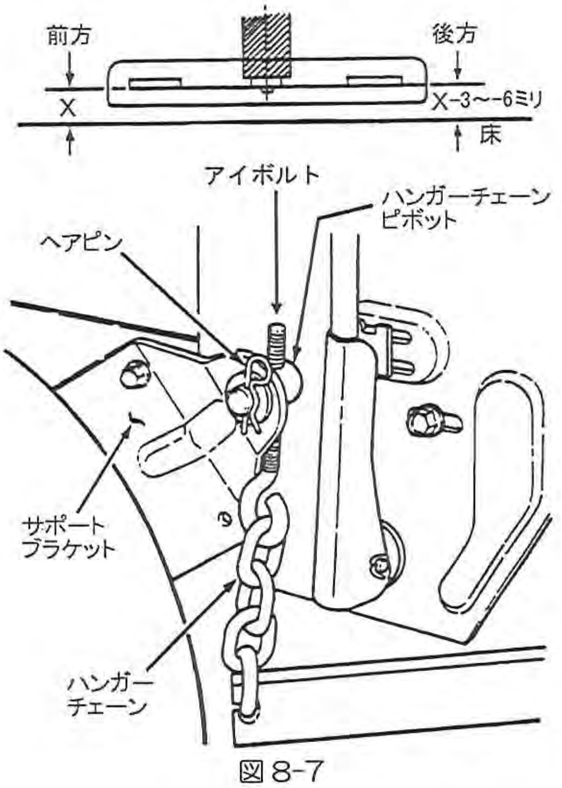


図 8-7

   c. 後部ハンガーチェーンをアイボルトに取り付け、ブレード両端の先端から床までの長さを測って下さい。
   d. 後ろの高さが前の高さと同じになるか、後ろが 3～6 ミリ低くなるまで、A～Cまでの手順を繰り返して下さい。

デッキのタイミングロッドの調整

- デッキのタイミングロッドは最適に調整されていますので、調整を行わないで下さい。
- 調整する必要がある場合には、販売店、又は代理店に調整をご依頼ください。

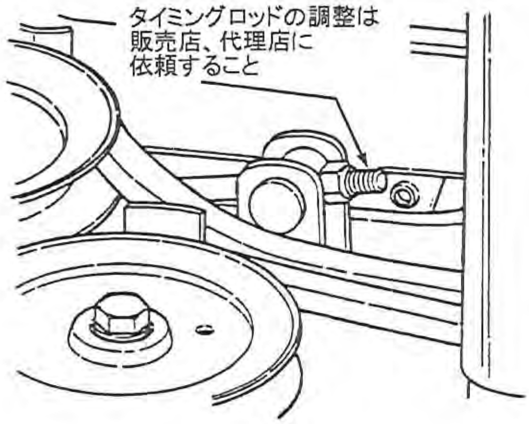


図 8-8

8-5 ドライブユニットの調整

芝刈機の走行に関する調整は下記の指示に従って行って下さい。

> **・注　意**
> **調整、修理の作業に不慣れな方は販売店にご依頼下さい。**

① クラッチ

この芝刈機は滑らかにスタートできるクラッチが装備されており、そのクラッチにより充分な摩擦を駆動部分に伝えることが出来ます。もし、調整や修理が必要な場合は販売店にご依頼下さい。

② クラッチ（滑り）の調整

クラッチ／ブレーキペダルから足を離した時にクラッチが極端にきいたり、滑るようであれば下記のように調整を行なって下さい。

・警　告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行なう際には、必ず次の事を確認してから行なって下さい。

1.エンジンを完全に停止します。
2.点火スイッチが「OFF」にし、キーを抜いておきます。
3.スパークプラグからプラグキャップを抜いておきます。
4.駐車ブレーキを掛けておきます。
5.エンジンが完全に冷えてから作業します

付　記

2時間以上、芝刈機を立てておく時はバッテリーを取り外して下さい。

1. スパークプラグワイヤーをプラグから抜き、スパークが飛ばない場所におきます。
2. タンクキャップの上の通気口を閉めます。
3. 燃料タンクに燃料が 3/4 以上入ってる場合は 3/4 以下になるよう燃料を戻して下さい。
4. リアバンパーを下にしてゆっくりと芝刈機を立てます。
5. ヨークアームをチェーンケースとデファレンシャルの間に持ってきます。
6. スプリングを1番目の穴（クラッチのすべりが減少）から4番目の穴（クラッチのすべりが増加）のいずれか適切な位置に移動します。（図 8-9）

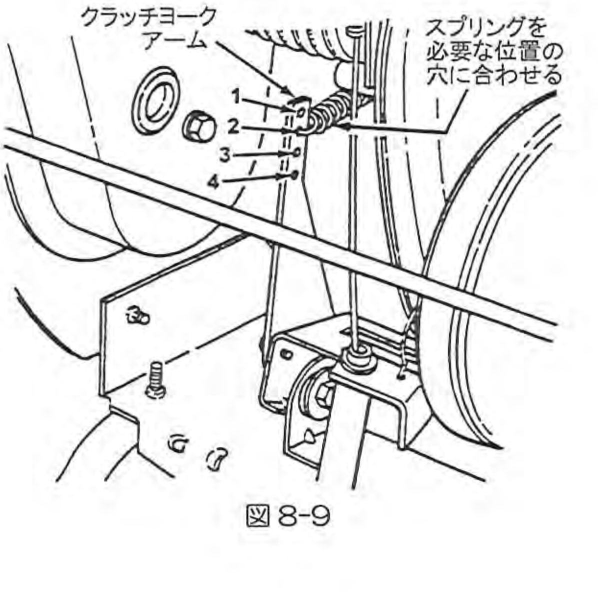


図 8-9

③ クラッチ（変速）の調整

クラッチ／ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキをかけ、変速レバーを1段に入れます。この時、変速レバーが動かなかったり、動かしにくい場合には以下の手順でクラッチディスクとドライブディスクの間の隙間を調整して下さい。

1. ② 項と同様にリアバンパーを下にしてゆっくりと芝刈機を立てます。
2. クラッチ／ブレーキペダルをいっぱいに押し込みます。駐車ブレーキレバーを「ON」に合せてからクラッチ／ブレーキペダルを離して駐車ブレーキをかけます
3. 変速レバーをバックに入れます。
4. クラッチディスクとドライブディスクの間に隙間があるのを確認します。（図 8-10）

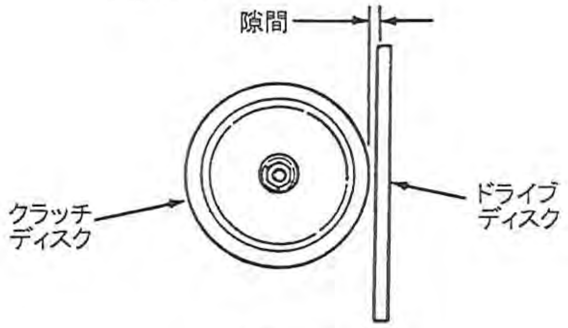


図 8-10

5. もし隙間がなければ、クラッチ／ブレーキペダルを押して駐車ブレーキを解除します。
6. クラッチ／ブレーキペダルを座席のほうに引き、ケーブルの止め具を1つずらしペダルアームに通します。（図 8-11）

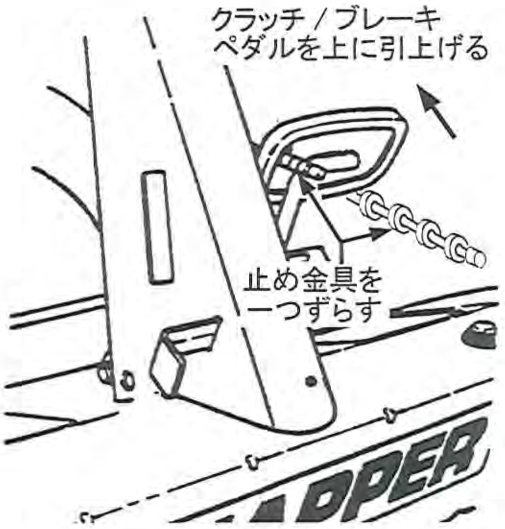


図 8-11

7. クラッチ／ブレーキペダルをいっぱいに押し込みます。駐車ブレーキラッチを「ON」に合せてからクラッチ／ブレーキペダルを離して駐車ブレーキをかけます

8. クラッチディスクとドライブディスクの間の隙間を確認します。隙間が無い場合は、隙間ができるまで 5~6 の手順を行います。

付　記
止め金具を全部使用してもディスクの間隙を得られない時は販売店に調整を依頼して下さい。

④ ホイール（駐車）ブレーキの調整

ブレーキは最適な調整の場合、平坦で乾いたコンクリート上で最高速度（変速レバー５段）からいっぱいに踏み込んだ時、およそ 1.5 ﾒｰﾄﾙで停止します。

ブレーキ調整が必要な場合には、下記の手順に従って下さい。

・警　告
芝刈機やエンジンの点検・調整を行なう際には、必ず次の事を確認してから行なって下さい。 **1.エンジンを完全に停止します。** **2.点火スイッチが「OFF」にし、キーを抜いておきます。** **3.スパークプラグからプラグキャップを抜いておきます。** **4.駐車ブレーキを掛けておきます。** **5.エンジンが完全に冷えてから作業します**

付　記
２時間以上、芝刈機を立てておく時はバッテリーを外して下さい。

1. スパークプラグワイヤーをプラグから抜き、スパークが飛ばない場所によけておきます。
2. タンクキャップの上の通気口を閉めます。
3. 燃料タンクに燃料が 3/4 以上入ってる場合は､3/4 以下になるよう燃料を戻して下さい。
4. クラッチ／ブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。
5. 駐車ブレーキレバーを「ON」に合せてからクラッチ／ブレーキペダルを離して駐車ブレーキをかけます。（図 8-12）
6. リアダンパーを下にしてゆっくりと芝刈機を立てます。

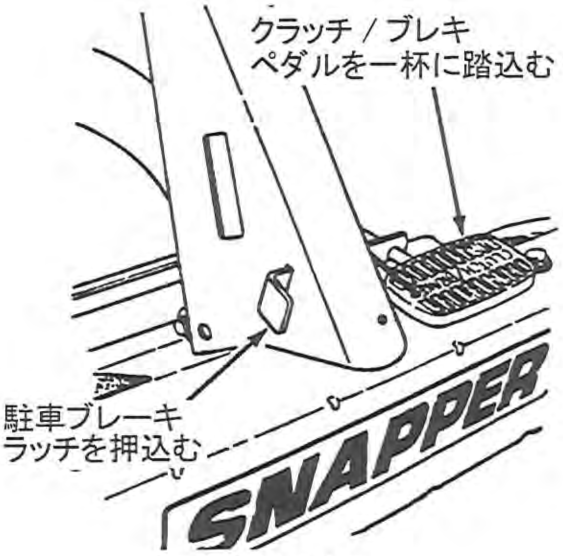


図 8-12

1. クラッチ／ブレーキケーブルの下端からケースの底までの距離を測ります。規定距離は 13 ﾐﾘ～１９ﾐﾘです。（図 8-13）

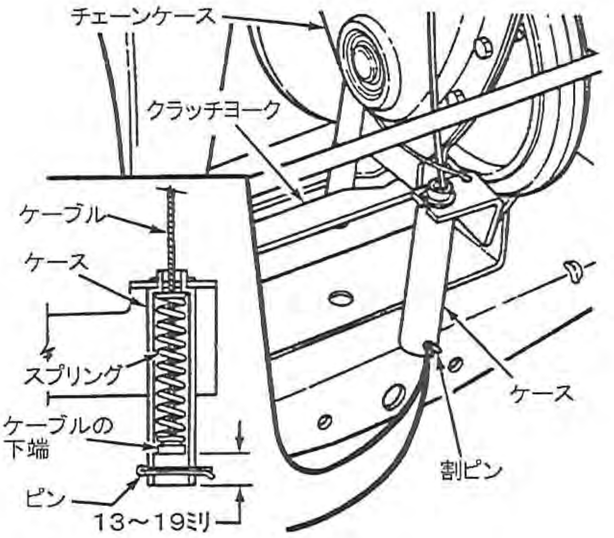


図 8-13

2. クラッチ／ブレーキケーブルの下端からケースの底までの距離が規定距離より長かったり、短い場合は、下記の手順にしたがって調整を行って下さい。
   a. クラッチ／ブレーキケーブルをチェーンケースに止めている２つのロックナットをゆるめます。

（次ﾍﾟｰｼﾞ 図 8-14）

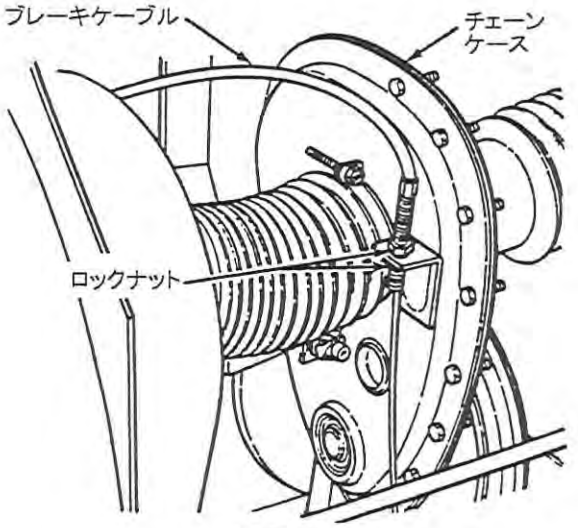


図8-14

b. クラッチ/ブレーキケーブルの下端からケースの底までの距離が規定距離に入るように調整します。

c. 調整が終わったらロックナットをしっかりと締付けます。

8-6 ブレードの修理、交換

① ブレードの使用限界

ブレードが過度に擦り減っていたり、傷ついたりしていないか時々点検し、傷ついたブレードは新しいブレードと交換します。(図 8-15)

砂地で、刈高を低くして芝刈りすると砂がブレードに強く衝突し、すぐに©のようにブレードが摩耗します。

・警　告

大きな破損や亀裂のあるブレードは絶対に使用しないでください。ブレードの破損については図を参考にして下さい。
ブレードを扱う際には、保護手袋をつけて十分注意して行なって下さい。

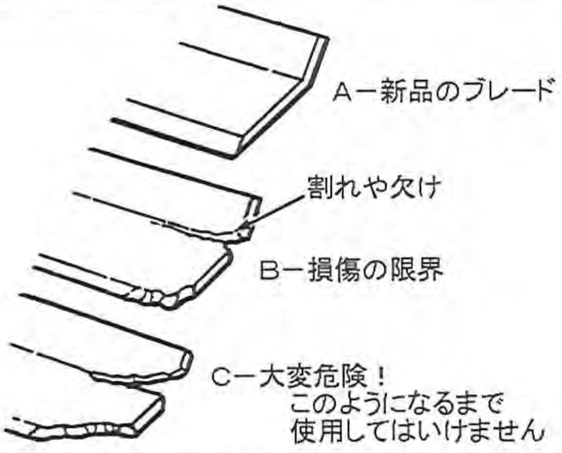


図8-15

ブレードは必ず純正品をご使用ください。

② ブレードの研磨

ブレードは常に鋭くしておきます。刃先が鈍ったブレードで芝を刈ると芝の先がはぼろぼろになり、褐色に変色してしまいます。
ブレードの研磨は下記の手順に従って下さい。

・警　告

芝刈機やエンジンの点検・調整を行なう際には、必ず次の事を確認してから行なって下さい。

1.エンジンを完全に停止します。
2.点火スイッチが「OFF」にし、キーを抜いておきます。
3.スパークプラグからプラグキャップを抜いておきます。
4.駐車ブレーキを掛けておきます。
5.エンジンが完全に冷えてから作業します

付　記

2時間以上、芝刈機を立てておく時はバッテリーを取り外して下さい。

1. スパークプラグワイヤーをプラグから抜き、スパークが飛ばない場所によけておきます。
2. タンクキャップの上の通気口を閉めます。
3. 燃料タンクに燃料が 3/4 以上入ってる場合は、3/4 以下になるよう燃料を戻して下さい。
4. リアバンパーを下にしてゆっくりと芝刈機を立てます。
5. ブレードを止めている２本のマウントボルト、ロックワッシャー、ロックナットを取り外し、ブレードを取り外します。(図8-16)

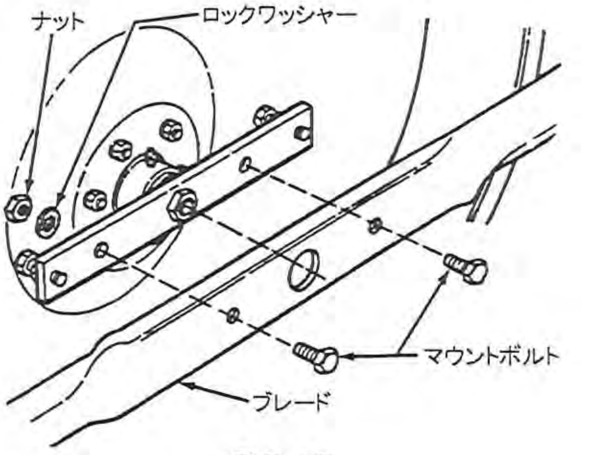


図8-16

6. ブレードの研磨は25° ±3° が標準です。（図8-17）

> **・警　告**
> **ブレードは標準角度より鋭く研磨しないで下さい。**
> **鋭すぎるブレードは欠けや折れの原因となります。**

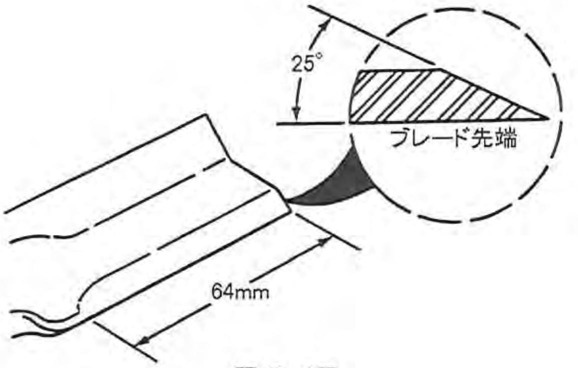


図8-17

7. 研磨後はブレードの中心の穴を、太いボルトで支えて重さのバランスを確認し、バランスが取れるように再度研磨して調整して下さい。
8. ブレードをマウントボルトと、ロックワッシャー、ロックナットで締付けて取り付けます。マウントボルトの締付けトルクは 4.5～5.5kgf-m です。
9. （25 頁）に従って、ブレードの水平度を点検・調整して下さい。

> **・注　意**
> **エアリフトを取り付けるブレードは、ブレード交換時にはエアリフトも交換して下さい。**

8-7 ベルトの交換

4. 過度に擦り減っていたり傷ついたりしているベルトは交換して下さい。（20 頁参照）

① ベルトの取り外し

1. ベルトカバーを外します。
2. 古くなったベルトは切断して取り外します。

② ベルトの交換

1. アイドラーを外します。（図 8-18A、B）
2. 変速レバーを「N」（ニュートラル）に入れます。

28" & 30" DECKS

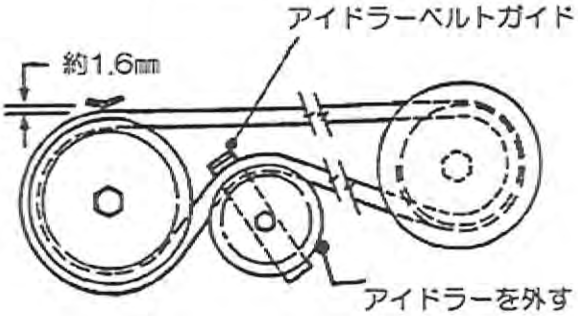


図8-18A

33" DECKS

33" モデル

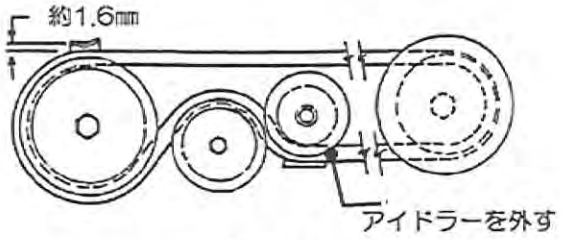


図8-18B

3. 燃料タンクに燃料が 3/4 以上入ってる場合は、3/4 以下になるよう燃料をタンクから出して下さい。（24 頁参照）
4. リアバンパーを下にしてゆっくりと芝刈機を立てます。
5. 新しいベルトをエンジンベルトガイドに通しエンジンプーリーに回します。
6. 変速レバーを5段に入れ、ベルトをドライブディスクの上からエンジンプーリーの溝に通します。（図 8-19）

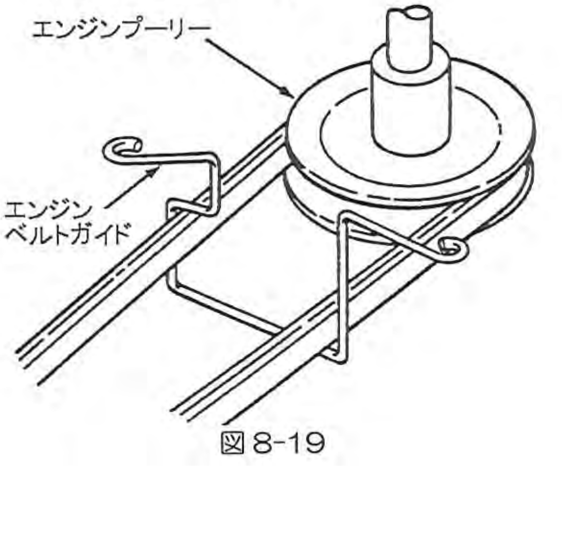


図8-19

7. ベルトをスピンドルプーリーの方へ回します。スピンドルプーリーの溝とアイドラープーリーの溝にベルトが入っているかどうか確かめます。ベルトのルートは、図 8-18A、B を参照下さい。
8. アイドラーを取り付けます。このときアイドラーベルトガイドが端に来るようにして、ボルトをしっかりと締付けて取り付けます。
9. ベルトガイドを調整します。ベルトとベルトガイドの間に隙間を設けます。28"、33"モデル共通。（図 8-20）

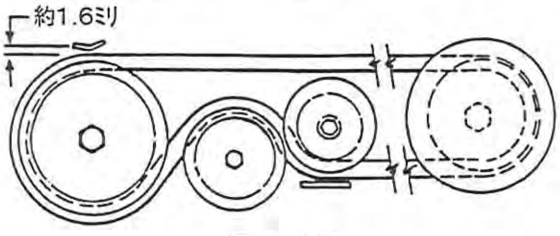
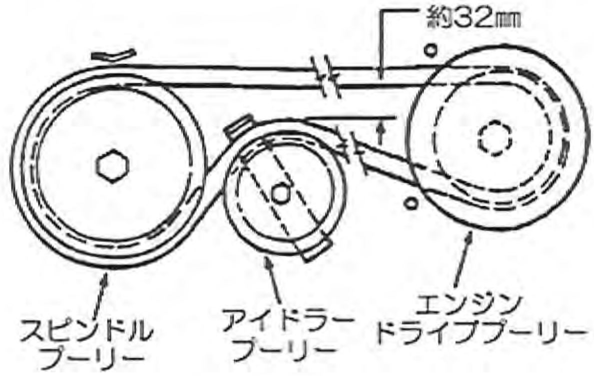


図8-20

10. 必要に応じてドライブベルトのテンションを確認して下さい。（28"と30"モデルのみ、下記参照）
11. ベルトカバーを取り付けます。

◎ ドライブベルトのテンション調整（28"、30"モデルのみ）

1. ドライブベルトカバーを外します。
2. ブレードレバーを持ち上げ「ON」の状態にします。
3. 刈高を「3」の位置にします。図 A のようにアイドラープーリーとベルトの間の距離を測ります。この距離は、31 ㎜～32 ㎜が適当です。



図A

4. もし距離が 25 ㎜以下の場合、調節が必要です。
5. ブレードレバーを「OFF」の状態にします。
6. フロントフレーム ASSY と後部メインケースを留めているハードウェアを緩めます。（図 B）
7. ブレードレバーが「ON」の状態で、ベルトの距離が約 32 ㎜になるまでフロントフレームを前方に引きます。
8. 調節が終わったら、留め金を固定するハードウェアを固定します。しっかりと固定されているか確認して下さい。

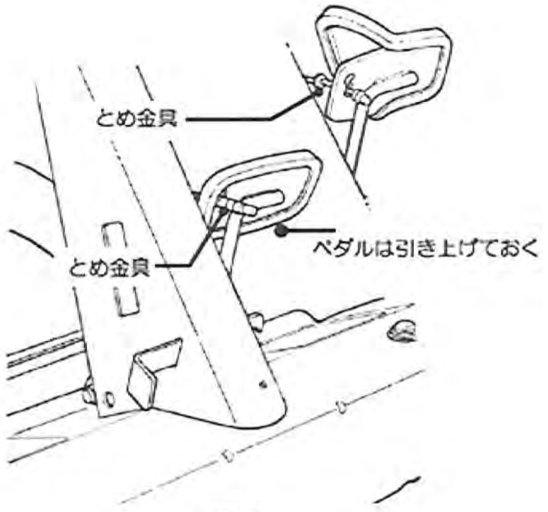
重要：33"モデルはこの調節は必要ありません。しかし、何らかの理由でフロントフレーム ASSY が緩んでいる場合、プーリーとベルトの距離を確認して下さい。プーリーとベルトの距離は、同様に約 32 ㎜が適当です。

9. ベルトの調節が出来たら、クラッチ/ブレーキケーブルの確認が必要です。
10. サイドブレーキを解除して下さい。（図 C）
11. クラッチ/ブレーキケーブルには、約 5 ㎜の緩みがあります。もし緩みがない場合、ケーブルの調節をしなければいけません。

図B

12. 図の C のように、クラッチ/ブレーキのゴムパッドをめくり上げます。約 5 ㎜の緩みがあるかどうか確認します。適当な場合、パッドを交換して下さい。

重要：緩みが大きすぎる場合や緩みが小さすぎる場合、クラッチやブレーキの制動に不具合が出る場合があります。必要な場合は、再調整を行なって下さい。（8-5 の③クラッチの調整を参照）



図C

8-8 バッテリー

① バッテリーの点検

> **・警　告**
> **バッテリーを取り扱う際には、エンジンの取扱説明書を合わせて読み、感電しないように十分注意して下さい。**
> **バッテリーが芝刈機に取付けてある間は絶対にバッテリーの充電その他の作業を行なってはいけません。**

バッテリーは２５時間使用ごとに点検、整備を行なって下さい。電解液は自然蒸発し、少しずつ減りますので時々蒸留水の補充が必要です。バッテリーの点検の際には以下の手順に従って行なって下さい。

1. バッテリーカバーを片側づつ、ゆっくりと外側に引っ張り、ラチェットファスナーから外し、バッテリーカバーを取り外します。（図8-21）

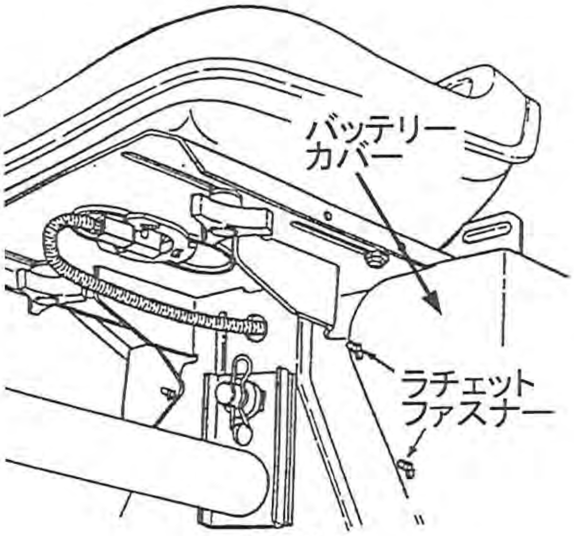


図8-21

2. デッキサポートの上に板を置いて、ケーブルをつないだまま、バッテリーを板の上にバッテリーボックスからずらします。（図 8-23）

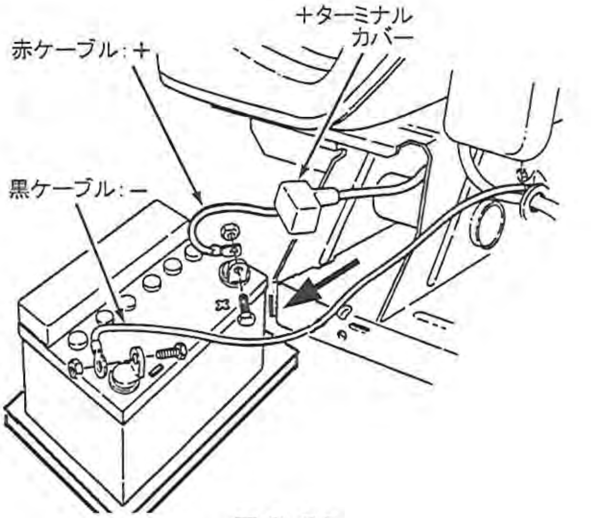


図8-22

3. ケーブルの＋と－、及びそれぞれの取付位置を確認し、メモしておきます。
4. まず、（－）ターミナルから**黒色**(－側)のケーブルを止めているボルトとナットを外し、ケーブルを取り外します。
5. 次に（＋）ターミナルから**赤色**(＋側)のケーブルを止めているボルトとナットを外し、ケーブルを取り外します。
6. バッテリーを注意深く取出して下さい。
7. バッテリー上部の６個のセルキャップを注意深く取り外して下さい。。
8. 各セルの中の電解液の量を調べ、電解液が不足している場合には、蒸留水をセルプレートの５ミリ上まで補充して下さい。
9. セルキャップを再びバッテリーに取り付けて、バッテリーボックスにバッテリーを途中まで入れます。
10. まず、**赤色(＋側)**のケーブルをボルトとナットで、ターミナルの(＋側)に取り付けて下さい。
11. 次に**黒色(－側)**のケーブルをボルトとナットでターミナルの(－側)に取り付けて下さい。

> **・注　意**
> **ケーブルは順序よく正確にバッテリーにつないで下さい。**

12. バッテリーカバーを取り付けます。

② バッテリーの充電

> **・警　告**
> **バッテリーを取り扱う際には、エンジンの取扱説明書を合わせて読み、感電しないように十分注意して下さい。**
> **バッテリーが芝刈機に取付けてある間は絶対にバッテリーの充電その他の作業を行なってはいけません。また、急速充電を行なってはいけません。**

1. バッテリーを取り外して下さい。
2. バッテリーを水平で平坦な、風通しの良い場所に置きます。
3. バッテリーセルキャップを外します。すべての電解液の量を点検し、不足していたら蒸留水を適正量になるまで補充します。
4. セルキャップを外したまま、充電器の**赤色(＋側)**ケーブルのクリップをバッテリーの(＋側)にしっかり取り付けます。
5. 次に充電器の**黒色(ー側)**ケーブルのクリップをバッテリーの(ー側)にしっかり取付けます
6. １Ａ（アンペア）で１０時間充電します。
7. バッテリーが充電されてくると、電解液の中から、盛んにガスが発生します。
8. バッテリーが充電されなかったり、１０時間でも充電が不十分な場合は新しいバッテリーと交換して下さい。

③ バッテリーの保管

使用シーズン以外は月に１回バッテリーを充電して下さい。またリアバンパーを下にして芝刈機を保管する場合には、電解液が漏れるのを防ぐために、バッテリーを取り外しておきます。

1. バッテリーを取り外して下さい。
2. バッテリーの電解液の点検を行います。
3. 必要であれば充電して下さい。
4. 芝刈機から離れた木の台の上にバッテリーを保管します。

> **・警　告**
> **絶対にコンクリートの床にバッテリーを保管してはいけません。電解液がこぼれるとコンクリートと反応し、コンクリートを傷めます。**

> **・警　告**
> **電解液は爆発性の高いガスを発生させます。バッテリーを充電するときや電解液を追加するとき等は必ず火の気の無い場所で行なって下さい。**
> **電解液は腐食性の高い液体です。電解液を取り扱うときは、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。電解液が眼や皮膚に触れたときは、直ちに洗い落とし、病院で診察を受けて下さい。**
> **✧　決して過充電はしないで下さい。**

④ バッテリーのテスト方法

- バッテリーのテスト方法は（無負荷時）および（負荷時）の二通りの方法があります。
- ここでは簡単でごく一般的な、無負荷時テスト方法について説明します。

1. 無負荷時テスト方法はバッテリーの放電電流と無関係に行うことができます。
2. 無負荷時テスト方法は電圧計と液体比重計を用いて、充電状態を検査します。
3. 電圧計でバッテリーの電圧を測定するとバッテリーの充電状態が判ります。
4. 電圧計の（＋）リード線をバッテリーの（＋側）ターミナルに
5. 電圧計の（ー）リード線をバッテリーの（ー側）ターミナルに接触させます。
6. 液体比重計でバッテリーの各セルの電解液の比重を計ります。
7. 表示された比重は充電の程度を表し、通常は比重が１．２６５～１．２８０であれば100%の充電状態です。
8. 比重が１．２３０～１．２６０では充電が必要です。

- 次の表はスポイト式液体比重計および電圧計での測定値によるバッテリーの充電状態を表示しています。

充電状態	電解液比重	電圧計
100% 限界比重	1.280	12.80V
100%充電	1.265	12.60V
75%充電	1.210	12.40V
50%充電	1.160	12.10V
25%充電	1.120	11.90V

9．故障の原因と対処

トラブル内容	対処方法	参照頁
エンジンが始動しない		
燃料不足	燃料を給油します	11
チョークを使用していない	スロットルレバーをチョークの位置にします	13
スパークプラグコードが外れている	スパークプラグコードを接続する	※
駐車ブレーキ、ブレードレバーのスイッチ不良	販売店、又は代理店にご依頼下さい。	※
駐車ブレーキがかかっていない	駐車ブレーキをかけます	12
ヒューズが切れている	新しい20Aヒューズを取付けます	39
インターロックスイッチが不良	インターロックスイッチを点検／交換します	20 ※
キースイッチが不良	キースイッチを点検／交換します	13
バッテリーの容量がないか不良	充電するか又は、交換します	34
ソレノイド又はセルモーターが不良	エンジン取り扱い説明書を参照して下さい。	39 ※
バッテリーケーブルの不良または接続不良	ターミナルを掃除して正しく接続する	5
配線が外れている又は痛んでいる	点検清掃を行ない配線をきちんとつなぎます	38※
始動後にエンストを起こす		
運転者が座席に座っていない	正しい姿勢で座席に座ります	12, 20
スロットルレバーがチョークの位置にある	スロットルレバーを高速の位置にします	13
燃料が不足している	燃料を補給します	11
エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーを掃除又は交換します	※
スパークプラグの電極の隙間が正しくない	スパークプラグの電極間の隙間を調節します	※
燃料フィルターが詰まっている	燃料フィルターを交換します	23 ※
水、ごみ、古い燃料が燃料系統に入っている	燃料系統を掃除し燃料フィルターを交換	23 ※
エンジン出力が上がらない		
エンジンに負荷がかかりすぎている	エンジンの負荷になるものを取り除きます	※
エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーを掃除又は交換します	※
冷却フィンやエアースクリーンが汚れている	冷却フィンやエアースクリーンを掃除します	※
スパークプラグが故障している又は汚れている	スパークプラグを掃除／交換します	※
水、ごみ、古い燃料が燃料系統に入っている	燃料系統を掃除し燃料フィルターを交換	23 ※
エンジンを止めた時バックファイヤー発生		
スロットルレバーが高速のままである	低速で約1分回転させてスイッチを切ります	13
振動が大きい		
ブレードが摩耗、曲がり、又は破損している	ブレードを研磨、又は交換します	31
ブレードの取付けが不備	ブレードをしっかりと取付けます	31
エアリフトが破損、取付け不備(ｴｱｰﾘﾌﾄ使用時)	エアリフトを交換、又は正しく取付けします。	32
ベルトのほつれ、変形	ベルトを交換します	32
アイドラー、ステイショナル等のプーリー変形	プーリーを交換します	32
エンジンは稼動するが芝刈機が動かない		
ドライブディスクが磨耗、破損している	ドライブディスクを交換します	29
クラッチディスクのゴムが接触位置不良	従動ディスクの取付け位置を正しくする	29
車軸結合ピンの取付け不良	販売店、又は代理店にご依頼下さい。	―
車軸ベアリングの焼付き	販売店、又は代理店にご依頼下さい。	―
チェンケース、デファレンシャルの潤滑不足	販売店、又は代理店にご依頼下さい。	22

トラブル内容	対処方法	参照頁
芝を刈れない		
ブレードレバーがＯＦＦになっている	ブレードレバーをONにします	16
デッキ ドライブ ベルトが滑っている	デッキ ドライブ ベルトを交換します	32
ブレードが摩耗している、又は破損している	ブレードを研磨、又は交換します	31
芝がきれいに刈れない		
タイヤ空気圧が不均一	タイヤの空気圧を正しくします	10
刈高を高く又は低く設定している	刈高調整レバーで適正な刈高に調節します	15
エンジンの回転速度が遅い	スロットルレバーをFAST まで上げます	14
芝刈機の速度が早すぎる	変速レバーで芝刈機の速度を下げます	14, 15
芝が左右不ぞろいに刈れる	デッキの左右の高さを調整します	26
デッキの前後の高さが違いすぎる	デッキの前後の高さを調整します	27
ブレードが摩耗している、又は破損している	ブレードを研磨、又は交換します	31
デツキ ドライブ ベルトが滑っている	デツキ ドライブ ベルトを交換します	32
芝の排出が不良		
エンジンの回転速度が遅い	スロットルレバーをFAST まで上げます	14
芝刈機の速度が早すぎる	変速レバーで芝刈機の速度を下げます	14, 15
芝が濡れている	芝が乾いている時に芝刈りを行います	15
ブレードが摩耗している、又は破損している	ブレードを研磨、又は交換します	31
デッキに芝やゴミが詰まっている	デッキを清掃します	23
正しいブレードを使用していない	スナッパー純正のブレードに交換します	31
オイル洩れ		
チェンケース、デファレンシャルのプラグ不良	ガスケットやプラグを点検します	22 ※
エンジン部分からのオイル洩れ	販売店、又は代理店にご依頼ください	※

※エンジンの取扱説明書を参照して下さい。

１０. 定期整備表

項目	参照頁	使用する前に	２５時間使用毎に	50 時間使用毎に	100 時間使用毎に	シーズン毎に
ボルト、ナットの締付け	10	●				●
ブレードの清掃と研磨	31	●	●			●
デッキの清掃	23	●				●
タイヤ空気圧の点検と調整	10	●				
エンジンオイルの量の確認	10※	●				
エンジンオイルの交換（★）	19※			●		
エアクリーナーの点検と清掃（▽）	※		●			
燃料フィルターの交換（▽）	※				●	
スパークプラグの交換	※				●	
エンジンフィンとカバー及び冷却系統の清掃	※				●	
バッテリーの電解液点検	33		●			●
バッテリーの充電	34					●
デッキベルトの点検	32		●			●
各部のグリース注入	21		●			●
チェーンケースとトランスミッションの給油	22				●	●
ブレードの停止時間	25	●	ブレードブレーキの調整後に行います			●
クラッチ/ブレーキの効き	30	●				●
リバースロックアウトメカニズムの点検	17	●	●			

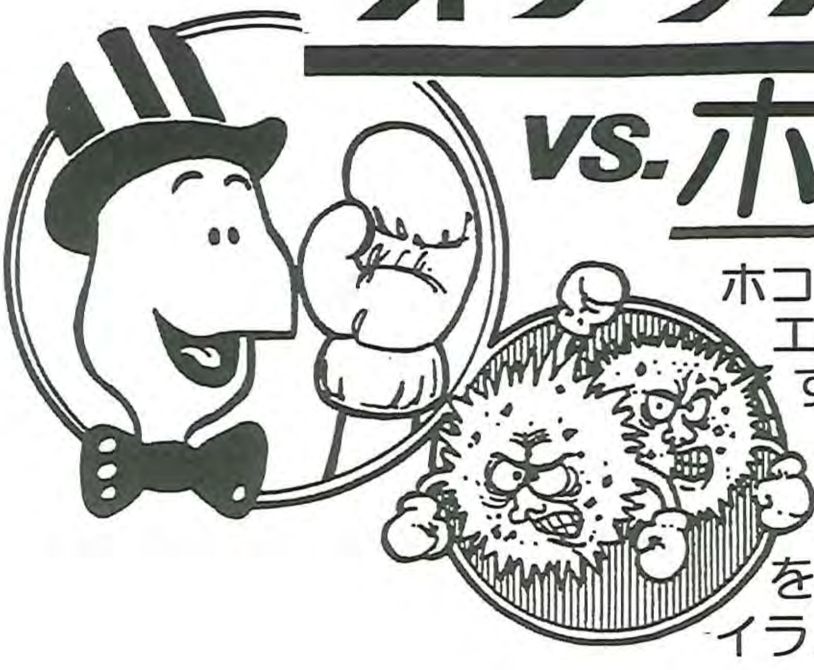
※）エンジンの取扱説明書を参照して下さい。
★）エンジンオイルは初めて使用してから５時間後に１回交換して下さい。
▽）気温が３０℃以上になったり、埃っぽい環境で使用している時には表で示した期間よりも頻繁に点検、交換して下さい。

2812523BVE
搭載エンジン
B&S 219907
タイプNO. 0131

3317523BVE
搭載エンジン
B&S 31G777
タイプNO. 0297

11. スナッパーとホコリの戦い

スナッパー vs. ホコリ!



ホコリはどのようにして
エンジンをダメに
するのか。

適切な点検・整備は
どのようにエンジン
をホコリから守るのか
イラストで表しています。

スナッパー社はその芝刈機に
最も適したエンジンを
搭載しています。

スナッパー社は長く満足な
サービスを提供するために
それらの製品の中で最適に
使用できるエンジンと
構成部品を使用します。

しかし、適切な点検・整備は
エンジンの寿命を延ばす
基本的な条件です。

ホコリはエンジンの
大敵です。

芝刈機のエンジンは地面に
接したホコリと汚れの嵐の中で
高速で運転することを要求され
ます。

ホコリの粒子が大量に
浮遊している空気を使用
せざるを得ない運転環境で

エンジンはガソリンを
1リットル消費するのに数千リットル
の空気が必要です。

ご承知のようにホコリは
早期にエンジンを破滅さ
せます。

メーカーは非常に効率の
良いエアークリーナーを
装備してホコリの危害から
エンジンを守っています。

ホコリの粒子はエアークリーナーの外側で止められ、やがてエアークリーナーに詰ります。詰まったエアークリーナーを通過する空気の量は少なくなり、ガソリンが濃い状態で運転され、次のような悪い結果を生じます。

エアークリーナーの点検・整備不良による、エンジンの損傷はクレームになりません。

芝刈機を使用する人が、エンジンの取扱説明書に従って、定期的にエアークリーナーを掃除したり、必要に応じてエアークリーナーを交換することが大切です。

エアークリーナーは短い期間でひんぱんに点検・整備することが大切です。

エンジンの取扱説明書に従って、正しく点検することが望ましいのですが、ここでは一般的なエアークリーナーの点検・整備方法を述べますので参考にして下さい。

1. 燃料消費量の増加
2. 出力低下
3. エンジン始動困難
4. 不完全燃焼　排気煙増加
5. 燃焼室等へのカーボン堆積
6. プラグ電極の汚れ
7. シリンダーウオールの掻き傷
8. バルブの焼け
9. エンジン内部の早期摩耗
10. 結果として修理費用の増加

空気はエンジンを冷却するために必要です。
ホコリやゴミ、草の屑はエンジンの冷却風取入口スクリーンや冷却フィンに溜まり空気の流れを妨げます。

冷却風取入口スクリーンや、冷却フィンを定期的によく掃除して下さい。

少なくとも、シーズン中に一度や二度エンジンのブロアーハウジングを外してハウジングの内部や冷却フィンの間のゴミを掃除します。 更にエンジンの外側を常に掃除しておかないと、エンジンがオーバーヒートして次の症状を起こし、エンジンの寿命を短くします。

1. バルブガイドの歪
2. バルブの膠着
3. シリンダーウォルの掻傷
4. 過回転
5. 出力低下
6. エンジン不調

一般的にウレタンフォームのフィルターは食器用洗剤で洗って、よくすすぎ乾燥します。 その後エンジンオイルを少し染み込ませてから、軽く絞って余分なオイルを絞り出します。

注意・・このタイプのフィルターはオイルを少し染み込ませないと細かいホコリがエンジンに入りエンジンが早く傷みます。

紙製のフィルターは軽く叩いてホコリを落とします。
フィルターに穴が開いたり，ホコリが詰まって掃除できないときは新しいフィルターと交換します。

細かいゴミは汚れた燃料缶から燃料に混ざって、エンジンに侵入してきます。

ゴミや水で汚れていない燃料缶を使用して、いつもきれいな新しいガソリンを使用します。

ガソリンは保管中に劣化して、キャブレターへの流入を妨げる、ガム質が形成されます。

３ヶ月以上保管したガソリンは使用してはいけません。

シーズンオフに芝刈機を保管する前に、燃料タンクからガソリンを抜き取り、さらにエンジンを始動して、燃料ホースやキャブレター内のガソリンを空にします。

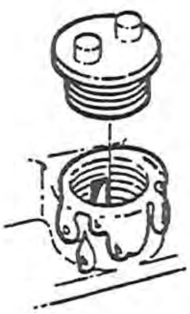
エンジンには適切な潤滑が必要です。
４サイクルエンジンはエンジンを始動する前に、オイル量を点検します。
オイル量を点検する時は、オイル注入口の周りをきれいにふいて下さい。
芝刈機を平坦な場所に置いて、ディップスティックでオイル量を調べます。
オイル量は「FULL」マークより多くてはいけません。「LOW」の位置のときは「FULL」マークまでオイルを補充して下さい。
オイルの量が少ないと、エンジンが焼付きを起こします。

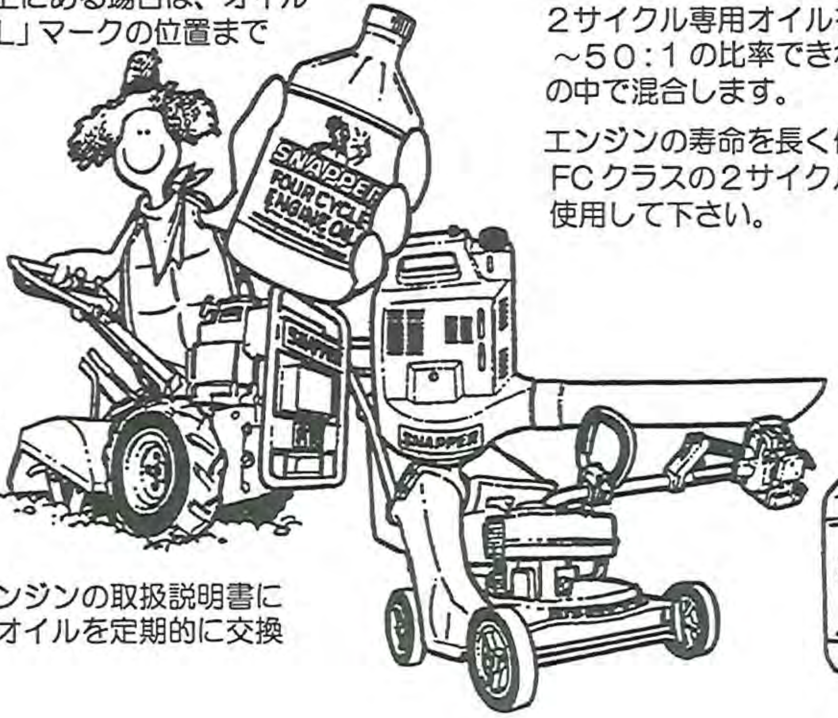
4サイクルエンジンは充分な量のオイルが必要と考えて、オイルを入れ過ぎないで下さい。　エンジンのオイル注入口から少し流れ出る状態で良いのです。

オイル注入口が上にある場合は、オイルゲージの「FULL」マークの位置まで入れます。

2サイクルエンジンはガソリンと2サイクル専用オイルを25：1～50：1の比率できれいな容器の中で混合します。

エンジンの寿命を長く保つためにFCクラスの2サイクル専用オイルを使用して下さい。





オイル交換はエンジンの取扱説明書に従って質の良いオイルを定期的に交換して下さい。

作業前の点検項目

1．エンジンオイル	オイル量確認
2．エアークリーナー	きれいに掃除
3．燃料タンク	新しくきれいなガソリン
	燃料コックを開く
	キャップのバルブを開く
	燃料フィルターの点検
4．チョーク	完全に閉ること
5．インターロック	正しく接続されているか
6．ブレードレバー	ニュートラルの位置
7．スパークプラグ	電極の掃除
	二次コードを正しく接続
8．スロットルレバー	チョークの位置にする
9．ブレード	正しく研磨してあるか
	取付ボルトの締付トルク
10．マフラー	確実に取付けてあるか
	芝が付着していないか
	詰まっていないか

どうかエンジンの敵はホコリであることを胸に留めておいて下さい。

エンジンの内側のホコリと、外側のほこりに注意して下さい。内側のホコリはエンジンを早く傷めます。

外側のホコリはオーバーヒートの原因となり、エンジンを傷めます。

不完全なオイルの点検、エアークリーナーの点検がエンジンを早く傷めますが、これらの原因で起きたエンジンの損傷はクレームになりません

早めの点検・整備は少ない整備費用で済みます。

取扱説明書をよく読んで、点検・整備をおこたり無く実施して下さい。

SNAPPER™

2812523BVE
3317523BVE

取扱説明書

ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読み下さい

ブリッグス・アンド・ストラットンジャパン株式会社

〒523-0817　滋賀県近江八幡市浅小井町 591
TEL：0748-34-0200　FAX：0748-33-3818

SNP-BSJ06/2009.04